

私たちの金沢大学 2022

大学を支えてくださるみなさまに
「大学の今」を紹介します

目 次

学長メッセージ	P1
金沢大学未来ビジョン 『志』	P2-3
○教育	
教育の特色ある取り組み	P4-6
大学院教育	P6-7
附属学校園	P8
○研究・産学連携・社会共創	
研究の特色ある取り組み	P 9-12
産学連携	P12-13
社会共創	P14-15
附属病院	P16
○国際化	
留学・国際交流の状況	P17-18
○学生生活・入試情報	
学修支援	P19
経済支援	P19-20
進学・就職状況	P21
入試情報	P22-23
○財務・施設・ガバナンス体制等	
財務状況	P24-25
施設整備	P26
ガバナンス体制／ダイバーシティ推進／金沢大学国際賞	P27
○附属図書館・資料館・同窓会・金沢大学基金	
附属図書館／資料館	P28
同窓会／金沢大学基金	P29
主な行事	P30
歴史と伝統を未来へ紡ぐ～写真で見る金沢大学～	P31

金沢大学校歌

作詞 室生犀星
作曲 信時 潔

あま 天つつなみ けぶらひ
あま 天そそる 白ねの
ほくほう 北方のみやこに学府のありて
さん 燦たる燈をかかげたり
人は人をつくるため
のろしをあげ
えいち 慧智の時間を磨く
はえ 光栄ある人間をつくらむと
しんふう 新風文化の扉は開かれ
あたらしの人 世代にあふれ
手はつながれ 才能は結ばれ
こそりてわが学府につどへり
こそりてわが学府につどへり

オール金沢大学で「未来知」により社会に貢献する



金沢大学長

和田隆志

金沢大学は、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置づけをもって改革に取り組むことを金沢大学憲章で掲げています。ステークホルダーの皆様と共に、改革をし続ける金沢大学を目指す所存です。また、「学生や教職員が誇りと愛着を持ち、人が輝く金沢大学」として、一層の発展を成し遂げられるよう、熱意と不撓不屈の一心にて取り組む覚悟です。

世界中が急激に変化する中、金沢大学は希望ある社会に向けて、人類の英知を融合した「総合知」により現代の課題解決を先導するとともに、未来の課題を探求し克服する知恵である「未来知」により、国際社会の中核的リーダーとなる「金沢大学ブランド」人材を育成し、社会に貢献していきたいと思えます。

そして、新たに大学改革の今後2年間の行動計画となる「金沢大学未来ビジョン『志』」を策定し、同ビジョンに沿って、改革の進展度や達成度等の現状把握に基づくスピード感を持った改革に取り組めます。

教育面では、令和4年4月に、融合学域に地域の特性を活かした観光デザイン学類を新設しました。さらに令和5年4月には、同学域に、スマートライフ・スマート産業・スマート社会を見据え、仮想と現実を融合するXR技術等を活かしたスマート創成科学類（仮称）を新設し、4学域・20学類へと学びをさらに深化させます。

研究面では、世界トップレベルのナノ生命科学研究所をはじめとするフラッグシップ研究所群による世界的研究拠点の形成と機能強化を促進し、今後人類が直面するグローバルな課題や未踏の領域へと果敢に挑戦していきます。

さらに、本学の広大なキャンパスを活用して、産学官金連携によるオープンイノベーションと研究成果の社会実装を推進し、社会共創による新たな価値の創出を加速したいと考えています。

これらを実現するため、マネジメントを刷新するとともに、教育と研究を一体的に捉えた機能強化を行い、大学改革と人材育成の「金沢モデル」を確立します。

そして様々な個性を持つ学生・教職員が、学修・研究・業務に際して、志高く自らの能力を最大限に発揮できるよう、ダイバーシティ環境を整備します。

金沢大学は、その間断ない取り組みにより、人・知・社会との好循環をなす国際的イノベーションハブとなり社会的インパクトを生み出します。地域社会と世界の発展に貢献し、活気にあふれた「地域に愛され、世界に輝く金沢大学」であり続けるため、ステークホルダーの皆様と共に、教職員力を合わせて、オール金沢大学で邁進してまいります。

金沢大学未来ビジョン『志』

オール金沢大学で「未来知」により社会に貢献する

基本理念 地域と世界に開かれた教育重視の研究大学

揺るぎない未来ビジョン 金沢大学の「志」

オール金沢大学で「未来知」により社会に貢献する

**3つの
あるべき姿**

独創的な世界トップレベルの研究展開による世界的研究拠点の形成

社会の中核的リーダーたる“金沢大学ブランド人材”の輩出

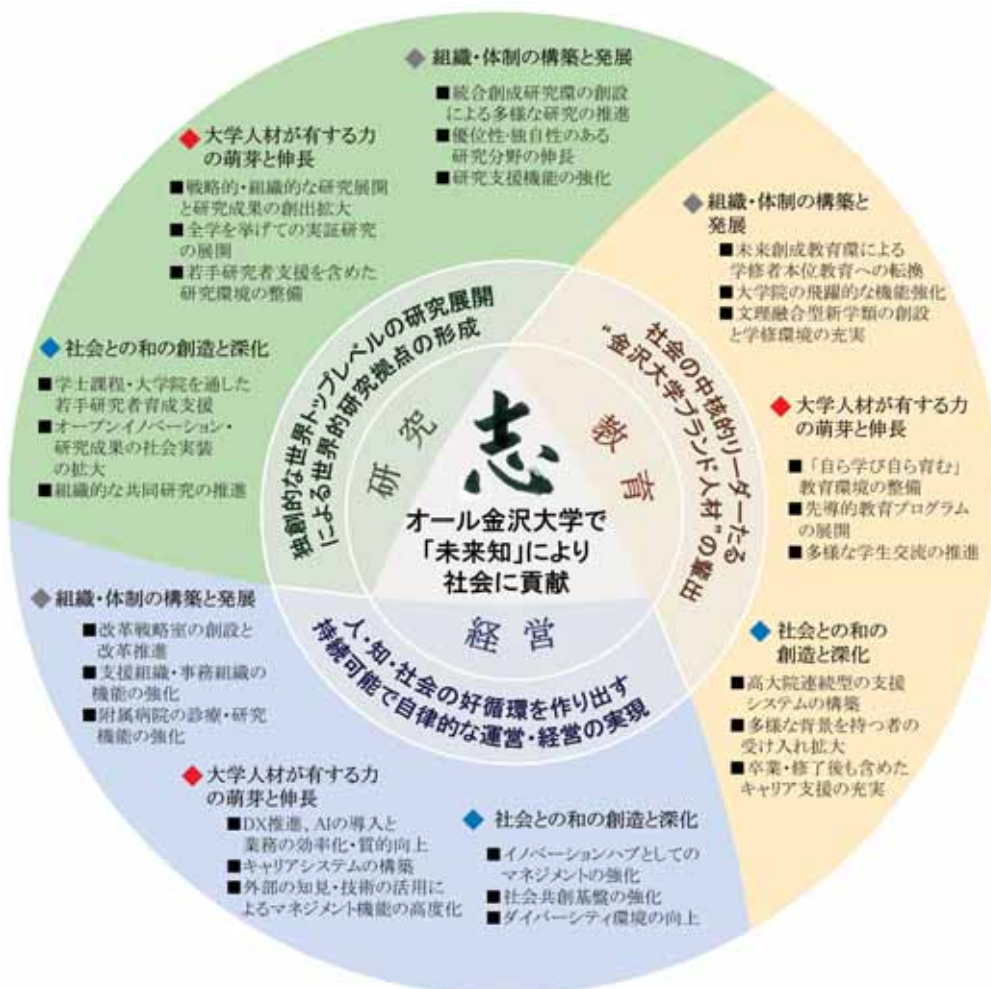
人・知・社会の好循環を作り出す持続可能で自律的な運営・経営の実現

**最重点
ミッション**

大学院の飛躍的な機能強化

優位性・独自性のある研究分野の伸長 “世界的研究拠点の形成”

全学を挙げての実証研究の展開



研究

独創的な世界トップレベルの研究
展開による世界的研究拠点の形成

これまでの歴史と真理の追求を礎に、現在の課題を踏まえ、フォワード/バックキャストにより、多様な幅広い裾野をもつ基礎研究・応用研究・融合研究を推進します。また、社会実装に向けキャンパス内での実証研究を展開します。これにより、世界の「知」、最先端研究をリードし、社会的インパクトを生む総合知のイノベーションハブとして、未来知により社会の発展に寄与することを目指します。

社会の中核的リーダーたる
“金沢大学ブランド人材”の輩出

教育

自己の使命を国際社会や地域社会で積極的に果たし、知識基盤社会の中核的なリーダーとなり、常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける人材像を、金沢大学＜グローバル＞スタンダード（Kanazawa University “Global” Standard: KUGS）として掲げています。このような「金沢大学ブランド人材」を輩出することを目指します。

経営

人・知・社会の好循環を作り出す
持続可能で自律的な運営・経営の実現

社会的インパクトを生む総合知のイノベーションハブとなるべく、学長のリーダーシップの下、教員と職員が協働し先駆的・戦略的な改革を推進します。多様なステークホルダーとのエンゲージメントを通じた大学経営、資金・人・知が好循環する持続可能な運営・経営の確立を目指します。



○教育

教育の特色ある取り組み

学士課程を4学域・19学類に再編 ～新たに融合学域を設置～

平成20年度の学域学類制への再編改組から10年以上が過ぎ、これまでの教育実績等を検証し、機能強化を図るため、教育組織や入学者選抜等の改革を計画的に進めています。本学の強みを活かし時代の要請に応えるべく学類の再編を行い、学域・学類のダイナミックな交流の下、未来志向の研究に積極的に取り組み、より質の高い学びを提供していきます。

令和3年4月には、平成20年度の学域学類制導入以降、初めて新学域〔融合学域〕を設置し、1番目の学類として「先導学類」を創設しました。令和4年4月には、2番目の学類として「観光デザイン学類」を新設し、4学域・19学類での教育を開始しています。

融合学域観光デザイン学類の設置とスマート創成科学類（仮称）※の申請

観光は我が国の産業にとって重要な要素の一つであり、観光立国としての立場を固めつつありましたが、コロナ禍によりその状況が一変しました。今求められているのは、従来の観光を再定義し、その価値をデザインできる人材、さらにそれをニューノーマル時代の新たな基幹産業へと発展させていく人材です。そうした社会の要請を受け、融合学域では、令和4年度に「観光デザイン学類」を設置しました。さらに3番目の学類として、スマート技術で新しい社会を創成する人材の養成を目指す「スマート創成科学類（仮称）」を令和5年4月にスタートさせるべく、検討を進めています。※設置申請中のため、今後の検討により内容が変更になる可能性があります。

人間社会学域学校教育学類共同教員養成課程の設置

令和4年4月からスタートした本学と富山大学が共同で開設する共同教員養成課程では、両大学の教員が学生の教育に携わります。これにより、学生はそれぞれの大学が持つ強みを持った分野の科目を受講できるようになり、その授業を両大学に整備した遠隔講義システムによって自大学にいながら受講できる等、様々なツールを利用して相手方大学に授業を提供していきます。さらに共同教員養成課程では、希望免許種と卒業研究をそれぞれ選ぶことができるため、希望免許は特別支援、卒業研究は美術教育といった柔軟な選択が可能となりました。

金沢大学＜グローバル＞スタンダード（KUGS）

グローバル化が不可逆的に進行する現在の国際社会において、大学憲章に掲げる基本的な教育目標の実現に向け、世界で活躍する「金沢大学ブランド」人材育成のため、本学独自の教育方針「金沢大学＜グローバル＞スタンダード」（Kanazawa University “Global” Standard ; 以下「KUGS」）を定めています。

6つのスタンダード

各人の立ち位置に課された人類の一員としての自己の使命を国際社会で積極的に果たし、知識基盤社会の中核的なリーダーとなって、常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける能力・体力・人間力を備えた人材を育成します。

金沢大学＜グローバル＞スタンダード（KUGS）

基準1	基準2	基準3	基準4	基準5	基準6
自己の立ち位置を知る	自己を知り、自己を鍛える	考え・価値観を表現する	世界とつながる	未来の課題に取り組む	新しい社会を生きる
鋭い倫理感と科学的知見をもって、人類の歴史学的時間と地政学的空間の中に立つ自己の位置、自己の使命を主体的に把握する能力	自己を知り、その限界に挑戦し、知的冒険と心身の鍛錬を通して常に自己の人間力を磨き高めていく能力	論理的構成力や言語表現力を駆使して概念やアイデアを明確に表現し、かつ自己の感性や価値観を的確に他者に伝える能力	他者への深い共感に基づいて異文化と共生し、各人にとっての自国と郷土の文化への自覚と誇りをもって、世界と積極的につながっていく能力	科学技術の動向、自然環境変動、持続可能性などの多角的視座から地球と人類、国際社会と日本の未来を総合的に予測し、未来の課題に取り組んでいく能力	Society5.0において、幅広い分野や考え方を俯瞰して異分野をつなげる力と新たな物事にチャレンジするマインドを備え、多様な他者との協働により未来の社会的課題を解決に導くための能力

基幹教育の定着及び深化

STEAM 人材育成に向けた基幹教育の拡充

令和2年度採択の「融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ社会変革先導人材育成プログラム」において、「先導 STEAM 人材育成プログラム」の開設を掲げています。(ページ下方に詳細を再掲)そこで、それらの土台作りとなるべく STEAM 教育全学必修化に向け、共通教育科目の Global Standard (GS) 科目に6群を新設し、基幹教育の面から STEAM 人材の育成を支えています。

また、1年次に導入科目として全学必修の情報系科目を開講しており、令和2年度(保健学類のみ令和3年度)からデータサイエンスの基本的知識の修得を初めとして、コンプライアンス・モラル、基礎的情報リテラシー等を学修する「データサイエンス基礎」を展開し、初年度からの STEAM 教育の拡充を図っています。

英語外部試験 TOEIC の指定スコアを全学域・研究科で卒業・修了要件化

本学では、グローバル人材育成の観点から、学生の英語能力の向上及び留学を早期に意識付ける機会として、令和3年度入学者から全学生に対して TOEIC スコアを卒業・修了要件化しました。

高度で良質な人材育成のための教育プログラム

学長プロジェクト ～未来デザインプラクティス～

「自分と未来は変えられる!」を合言葉に、授業を通して学生たち自身が地域社会や金沢大学を変えるプロジェクトを考えます。プロジェクトでの学びを通して、学生の未来を変えようという意欲を高め、未来を変えられるという自信を深める経験につなげます。本プロジェクトはこれまでの「学長と行く合宿『超』体験プログラム」を進化させ、1単位の正課教育として、アクティブ・ラーニングを取り入れた事前講義を実施し、学長講義、若手教員による研究講義、自治体の長による講義、地域の自然や伝統文化にふれる活動に加え、学生自らが考案したプロジェクトの発表を行います。年3回、能登・加賀・五箇山地区等で実施し、各回で選ばれたグループが最終報告会までにプロジェクトを実施し、成果を報告します。

データサイエンス特別プログラム

～もはやスペシャルではない。すでにスタンダードである。～



「数理・データサイエンス・AI」は、もはや特別な知識ではなく、日常生活、仕事等の場においてそれらを「使いこなすこと」が当たり前の世界が既に到来しています。本学の学士課程に在籍する平成28年度以降の学域入学者なら誰でも、本プログラムを修了することで、このことを理解し、実際に、数理・データサイエンス・AIの恩恵を享受するための、基礎能力を身に付けることができます。

本プログラムは文部科学省の認定を受けており、多くの企業がこの制度を支援しているので、就職活動などでの自己PR等に活用できます。令和3年度の本プログラムの修了認定者は1,179名にのびりました。

先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM)

KU-STEAM は、全学域学生対象の文理融合学修プログラムで、自身の専門分野に軸足を置きながら、積極的に他分野の知見を深め、異分野・異文化協働を実践することによって、未来課題の解決に挑戦する、先導 STEAM 人材の育成を目的としています。大学が学びを認定し、修了証を交付することで、データサイエンス特別プログラムと同様に、就職活動など今後の進路に役立ちます。



教育の特色ある取り組み

多様な学生を幅広く受け入れる独自の入試制度

入学者の多様性を確保するため、革新的な独自の入試を実施しています。

「KUGS 特別入試」では、本学が提供する KUGS 高大接続プログラム※の修了又は国立研究開発法人科学技術振興機構のグローバルサイエンスキャンパス事業第一段階の修了を出願要件とし、基礎的知識・技能を活用して他者と協働しながら夢を実現する強い意欲を持つ人材を選抜します。また、「超然特別入試」では、本学が平成 30 年度に創設した 2 つのコンテスト、日本数学 A-lympiad（卓越した数学と英語の力を持った高校生がチームで挑戦）、超然文学賞（「言葉の力」「文学の力」で人間の新しい可能性を切り開く能力を評価する文芸作品コンテスト）での入賞を出願要件とし、卓越した才能を持つ人材を選抜します。このほか、令和 3 年度入試からは後期日程を廃止し、前期日程に「文系一括・理系一括入試」も含めた募集人員を移行することで、本学を第 1 志望とする者の合格の機会を拡大しました。

これらの入試改革により、意欲ある多様な人材を受け入れ、複雑化・多様化する国際社会を牽引する「金沢大学ブランド」のグローバルリーダーを育成します。

※「金沢大学〈グローバル〉スタンダード」の能力が身に付くよう開発した独自の高大接続プログラム

大学院教育

高度化・国際化を推進する大学院教育プログラムの改革

大学院課程の組織改革と入学定員規模の拡大

平成 30 年度教育組織再編成による理工学域フロンティア工学類、生命理工学類の学年完成を迎え、理工学域では本組織整備を軸とし、学類での基礎教育を更に進展させ、「総合性」及び「学際性」に富んだ職業人と研究者を養成すること、並びに、博士後期課程への基礎課程としての教育研究を行うことを目的とし、入学定員の拡大を含めた大学院自然科学研究科博士前期課程を改組しました。

大学院自然科学研究科(博士前期課程)

令和 3 年度まで（6 専攻）

専攻
数物科学専攻（56名）
物質化学専攻（57名）
機械科学専攻（90名）
電子情報科学専攻（67名）
環境デザイン学専攻（40名）
自然システム学専攻（67名）

令和 4 年度（7 専攻）

専攻
数物科学専攻（59名）
物質化学専攻（63名）
機械科学専攻（72名）
フロンティア工学専攻（83名）
電子情報通信学専攻（63名）
地球社会基盤学専攻（69名） ・地球惑星科学コース ・社会基盤工学コース
生命理工学専攻（41名） ・生物科学コース ・バイオ工学コース

大学院博士前期・後期課程への GS（グローバルスタンダード）科目の展開・必修化

KUGS を基軸とした大学院 GS 科目を全学大学院において必修化しています。

大学院教育改革の一環として、令和 4 年 4 月に「大学院 GS 基盤科目」及び「大学院 GS 発展科目」を新設しました。これらの科目を履修することにより、全学生が博士研究人材として根幹をなすべき資質を涵養させることを目指します。

国外大学院との共同研究指導（コチュテル）制度導入によるダブルディグリープログラムの拡充

海外大学とのダブルディグリープログラム（以下 DDP）の更なる拡充として、新たに共同研究指導（コチュテル）制度を活用した単一論文型 DDP の導入を Gent 大学（ベルギー）およびインドネシア教育大学との間で検討しています。

コチュテル制度は、一つの研究内容を両大学で共同に指導する点が特徴であり、同一内容の論文をそれぞれの大学へ提出し、独立に学位審査を行います。

金沢大学博士研究人材支援・研究力強化戦略プロジェクト

次代の科学技術・イノベーション創出を担う、志ある優秀な博士後期課程学生は我が国の「知の源泉」ともいふべき存在ですが、近年、経済的な不安や将来のキャリアパスへの不透明さから博士後期課程に進学する学生が減少し、博士号取得者数は世界の主要先進国の中で唯一減少傾向にあります。

このような危機的状況を打開すべく、本学は学士課程、博士前期・修士課程から我が国の将来を担う優秀な人材確保を図るため、博士後期・博士課程学生への経済的支援とキャリアパス構築の支援を大学院教育改革と共に戦略的に推進しています。

以下は本学が実施する「金沢大学研究力強化・若手研究者支援戦略プロジェクト」事業の一部です。我が国の社会課題を解決する博士研究人材の育成に全学を挙げ取り組むべく、優秀な博士後期課程学生が、自身の自由で挑戦的・融合的な研究に専念できるための経済的支援の強化を目指します。

※別事業による支援を受ける者（給与を含む）は不可等の制限有

奨学制度名称	対象	奨学金の内容	支給期間
ナノ精密医学・理工学 卓越大学院プログラム奨学金	自然科学研究科 医薬保健学総合研究科 先進予防医学研究科 新学術創成研究科	50,000円/月 (修士・博士前期課程) 150,000円/月(令和4年度予定) (博士・博士後期課程) 入学科免除 授業料免除	標準修業年限内 RA給与 研究費(博士・博士後期課程)、 研究旅費等支援有り
科学技術イノベーション創出に 向けた大学フェローシップ創設 事業	自然科学研究科 医薬保健学総合研究科 先進予防医学研究科 新学術創成研究科	175,000～180,000円/月 (博士・博士後期課程) 入学科免除 授業料免除 研究費支援	標準修業年限内
次世代精鋭人材創発プロジェクト	全研究科 (専門職学位課程を除く)	180,000円/月 (博士・博士後期課程) 入学科免除 授業料免除 研究費支援	標準修業年限内

ナノ精密医学・理工学卓越大学院プログラム

本学が誇る世界一線級の研究者が集う世界トップレベル研究拠点(WPI)ナノ生命科学研究所の研究環境・実績を最大限に活用し、最先端のナノ解析技術を、医学・理工学へと応用する術を修得することで、人類の健康基盤構築のためのイノベーションを起こしうる卓越した博士人材を育成します。本プログラム履修者は、修了時に、所属研究科が定める学位にプラスして、本プログラムの修了を付記します。

科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業

将来の我が国の科学技術・イノベーション創出を担う優秀な人材の確保を図ることを目的として、博士課程・博士後期課程学生に対し、経済支援を中心とした処遇向上とキャリアパス支援を一体的に行う事業です。融合サイエンス分野、情報・AI分野、マテリアル分野の3分野で、優れた研究能力を有し、研究に専念することを希望する博士課程・博士後期課程の学生を選抜し、研究専念支援金及び研究費を支給する他、研究力向上とキャリアパス支援に向けた取組を行っています。

次世代精鋭人材創発プロジェクト

高い専門性と研究者に必須の素養を持ちつつ、分野の壁を突破力で乗り越え未知の領域に果敢に挑戦し、新たな価値を創出しイノベーションを先頭に立ち率いる次世代精鋭人材を育成するプロジェクトです。我が国の科学技術・イノベーションの創成や社会課題の解決に貢献すべく、実践的かつ分野融合的・横断的な研究を志向し、イノベーションマインドの火を常に燃やし続ける、真に優秀な博士研究人材を育成します。

附属学校園

金沢大学附属学校園将来構想〈金沢モデル〉が本格始動

5校園の調整や外部組織との交渉等のコーディネートを行う新たな組織「コラボレーション推進委員会」を設置し、令和4年度から、5校園の連続性・特色を生かしつつ「共通研究」、「先端技術・教育データの活用」、「社会イノベーション創造授業」を3本柱とした未来教育モデル〈金沢モデル〉を展開します。

また、附属小学校では、外国人児童適応指導学級（さくら）や通級指導教室（かしわ）を設置し、グローバル化・多様化が進む今、教育・研究の強化を図ります。

附属幼稚園 社会的情動スキル～生きる力の基礎となる社会情動的スキルの育成～

令和4年度は社会情動的スキルの一つである「探究心」に着目し、幼児期に育みたい資質・能力の育成を目的に取り組んでいます。その一つの取り組みとして、稲作や里山探検などの自然体験活動があります。自然インストラクター、農業従事者、研究者、教師が協働して開発した「幼児の自然体験プログラム」を実践する中で、園児は自己決定を繰り返しながら自然と関わり、学びを深め、資質・能力を育てています。



インストラクターと共に里山散策する園児

附属小学校 多様性を活用する力

～Society5.0に向けた人材育成～多様性をいかす汎用的能力の育成～

令和4年度は、実践教育研究「Society5.0に向けた人材育成～多様性をいかす汎用的能力の育成～」の研究主題のもと、本校児童にコミュニケーションに関する汎用的能力を育成することを目的として取り組みます。3年目となる今年度も、新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成していくことを目指し、コミュニケーション力をつける授業をどのように設計していくか、どのように評価していくか探求し発信していきます。



話し合いながら課題を解決する児童

附属中学校 創造的問題解決力～STEAM教育による「新たな価値を創造する資質・能力」の育成～

令和3年度から文部科学省の研究開発校に選ばれ、「個々の持つ強みを協働させて『新たな価値を創造する資質・能力』を育成する新設教科『創造デザイン科』の在り方に関する研究開発一個別最適化学習とSTEAM教育を柱として」という研究計画課題に取り組んでいます。新設教科では1年生が「思考ツールの活用やPC表現方法の理解」、2年生は「自らの強みがどのように活かされるか気づく」、3年生は「個人の強み・特性を活かして、協働して問題を解決していく活動」に取り組み、イノベーション力の育成を目指します。



プログラミングの学習をする生徒

附属高校 グローバルリーダーの育成～WWLコンソーシアム構築支援事業拠点校～

平成26年度から5年間文部科学省SGH（スーパーグローバルハイスクール）校の指定を受け、その後令和元年度から文部科学省「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業」の拠点校に採択され、今年度は4年目となります。「持続可能な世界を実現し、Society5.0を牽引するグローバル・リーダーの育成」を目標に金沢大学を管理機関として、北陸圏域内の高校、海外の高校、社会との3つのアライアンスを確立し、アドバンスト・ラーニングを促進します。



高校生探究成果発表会で発表を行う生徒

附属特別支援学校 Society5.0に生きるキャリア教育

～地域協働学習で育む自立と社会参加の力～

地域の方との協働活動や他団体との交流及び共同学習、企業と連携した作業学習等を通じて、児童生徒のキャリア発達を促し自立と社会参加を目指しています。これまでの活動が評価され、令和3年度キャリア教育優良校として文部科学大臣より表彰されました。また、令和3年度からは研究開発学校の指定を受け、特別支援教育の課題解決に向けた研究に取り組んでいます。



地域の方と災害時の調理実習をする高等部生徒

○研究・産学連携・社会共創

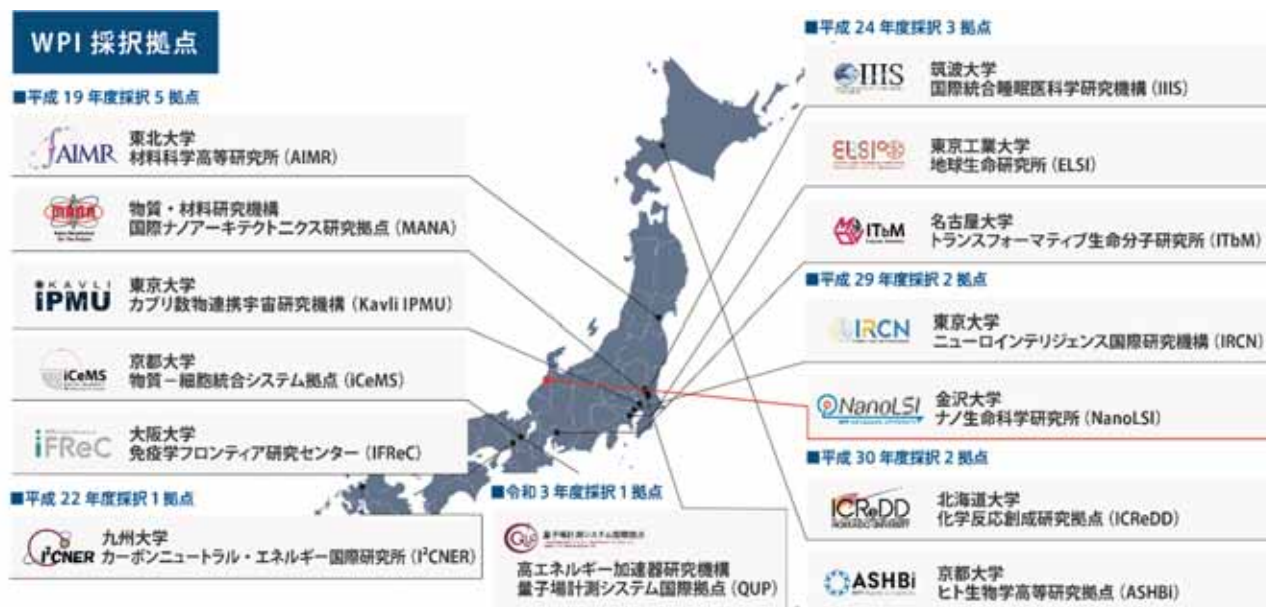
研究の特色ある取り組み

これまで誰も見たことのない生命現象を、観る、そして制御する

世界トップレベルの研究拠点形成へ — ナノ生命科学研究所 —



金沢大学は、平成 29 年度に「世界トップレベル研究拠点プログラム」(以下、WPI)に採択され、「ナノ生命科学研究所」(Nano Life Science Institute (WPI-NanoLSI), 以下『NanoLSI』)を設置しました。WPI とは、平成 19 年度から文部科学省が実施している、全世界から第一線の研究者が集まる優れた研究環境と世界最高水準の研究を誇る「世界から目に見える研究拠点」の形成を目指す事業です。



プログラム詳細はこちら : <https://www.jsps.go.jp/j-toplevel/>

NanoLSI では、1 メートルの 10 億分の 1、ちょうど分子や原子のサイズである「ナノ」の世界を舞台に、ナノスケールのものを観察できる最先端の「走査型プローブ顕微鏡技術」を核として、ナノ計測学、生命科学、超分子化学、数理計算科学間における異分野融合研究を推進しています。近い将来、生きた細胞の内部や表層を直接観察、分析、操作することができる世界初の「ナノ内視鏡 (ナノプローブ) 技術」を開発し、この技術によって生命の誕生や老化、「がん」等の疾患など、未だその実態が解明されていない生命現象の仕組みを根本的に理解し、解明することを目指します。

令和 2 年 9 月には、角間キャンパス南地区に研究者が一つの建物に集結するアンダーワンルーフ型の新しい研究棟が完成しました。オープンな環境で分野の枠を超えた研究の更なる加速が期待されます。



分野の枠を超えて議論を行う研究者

WPI サイエンスシンポジウムを開催

WPI 拠点の成果を広く紹介するために各拠点が持ち回りで開催している WPI サイエンスシンポジウムを令和 3 年 12 月にハイブリッド方式で開催しました。石川県教育委員会と連携した本シンポジウムには、石川県スーパーサイエンスハイスクール指定校の生徒を中心に、約 500 名が参加し、高校生による研究発表や、世界トップレベルの研究者による座談会が行われ、双方による活発なディスカッションが行われました。



福岡剛士所長からの質問に答える高校生

研究の特色ある取り組み

世界的研究拠点を目指す

— 超然プロジェクト —



世界的な研究拠点を形成し全学的な研究力強化につなげることで「世界に誇る金沢大学」を実現するため、平成 26 年度から「超然プロジェクト」を実施し、令和 3 年度までに 8 プロジェクトに対し支援を実施してきました。平成 29 年度には、このうち 3 プロジェクトを基盤とした「ナノ生命科学研究所」構想が、文部科学省「世界トップレベル研究拠点プログラム」に採択されています。

令和 4 年度から新たに 2 件のプロジェクトを対象として、優位性のある研究領域を重点的に支援しています。

「宇宙創成・極限時空研究拠点の形成」

金沢大学で開発してきた小型衛星「X線突発天体監視速報衛星こよう」や海外の人工衛星計画「SVOM」により、重力波天文学を推進するとともに、宇宙で最初の天体が作られた頃の初期宇宙の理解を目的とした将来の人工衛星計画「HiZ-GUNDAM」のプロジェクト化を主導します。理論研究と併せてインフレーションによる宇宙創成やブラックホール時空誕生について研究します。

理論研究と観測研究のチームが融合した「宇宙創成・極限時空の探査拠点」の基盤を形成します。



プロジェクトリーダー
数物科学系
米徳 大輔教授

「ダイヤモンド半導体先導研究拠点の形成」

究極の半導体材料であるダイヤモンドの社会実装を目的とし、ウェハ開発として低コストかつ大量生産を可能にする“ダイヤモンドインゴット製造技術”、“ダイヤモンド加工技術”に関する研究と、カーボンニュートラルに資するデバイス・応用技術開発として“パワーデバイス”、“量子デバイス”、“固体触媒技術”に関する研究を加速させます。

Society 5.0 の実現に資するエレクトロニクスを革新するダイヤモンド半導体先導研究拠点を形成します。



プロジェクトリーダー
ナノマテリアル研究所
徳田 規夫教授

大学の枠を超える

— 共同利用・共同研究拠点 —

文部科学省は、「我が国全体の学術研究の更なる発展のためには、国公立大学を問わず大学の研究ポテンシャルを活用し、研究者が共同で研究を行う体制を整備することが重要」とし、拠点認定を行っています。令和 4 年 4 月現在、国立大学では 65 拠点、本学は次の 2 拠点が認定されています。

がん進展制御研究所

全国の国立大学附置研究所の中で**唯一の「がん研究」に特化した研究所**です。本研究所は、がん研究に関わる中核的研究拠点の一つとして、文部科学省から「**がんの転移・薬剤耐性に関わる先導的共同研究拠点**」に認定されています。本研究所には、医学・薬学・獣医学及び理工学の幅広い分野の研究者が集結し、がんの悪性化機構の本態解明と先進的がん治療に関わる研究を推進しています。

環日本海域環境研究センター

金沢大学の地理的な特色を生かして、環日本海域から東アジアにおける種々の環境問題の科学的研究による解決に積極的に取り組んでいます。平成 28 年度に文部科学省から「**越境汚染に伴う環境変動に関する国際共同研究拠点**」に認定され、これまでの大気・海洋・陸域ごとの研究を統合して先進的調査研究を推進する「統合環境学」を創成し、研究成果を世界に発信しています。

文理融合型の新たな「次世代考古学」の確立

— 古代文明・文化資源学研究所 —

令和 4 年 4 月、人間社会研究の域内センターであった古代文明・文化資源学研究センターを発展的に解消し、全学研究所として「古代文明・文化資源学研究所」を設置しました。

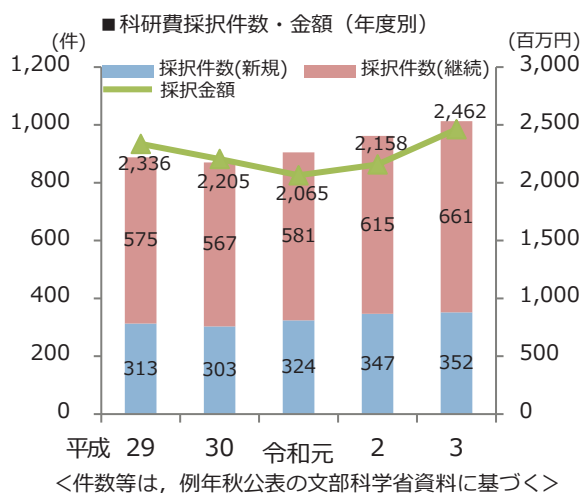
本研究所は、考古学部門、考古科学部門、文化資源学部門の 3 部門からなり、本学の強みである考古学・文化資源学の分野に革新的なパレオゲノミクスを融合させて格段の進化を図り、文理融合の新たな古代文明研究スタイルをもつ世界トップレベルの研究拠点形成を目指すとともに、世界的な文化遺産の調査研究や保護・保全に関して、世界を俯瞰するネットワーク構築を行い、我が国を代表する研究機関として日本の国際貢献に寄与し、SDGs 達成に貢献する研究所を目指します。

科研費採択状況

科研費は、人文・社会科学から自然科学まで、基礎から応用に及ぶあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）の発展を目的とする、我が国最大規模の研究助成制度です。

本学では、科研費獲得に向けた支援を全学的に行っており、令和3年度科研費の採択件数は、1,013件（うち新規採択352件）となりました。

採択件数の順位は、国内研究機関では14位で、旧六大学（金沢、千葉、新潟、岡山、長崎、熊本大学）の中では、岡山大学に続き2位となります。



主要公募事業の採択実績

文部科学省事業をはじめとする各種公募事業の採択を受け、先進的な研究活動を行っています。以下は、主な採択実績です。

共創の場形成支援プログラム（共創分野・本格型）（国立研究開発法人科学技術振興機構）

再生可能多糖類植物由来プラスチックによる資源循環社会共創拠点（令和3～12年度）

理工研究域生命理工学系・教授 高橋 憲司

本拠点では、多糖類農業廃棄物を資源として捉え、プラスチックごみを生み出さないバイオプラスチック製品を用途に合わせてリデザインします。適切な量だけ生産し、使用後に回収して再生することで無駄なく使い続ける、バイオプラスチック循環プラットフォームを構築します。そのプラットフォームが、様々な世界地域へ、樹木の年輪のように拡大成長し、大量生産、大量廃棄による暗黒の未来を防ぎます。

地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）（国立研究開発法人科学技術振興機構）

カンボジアにおける大気汚染リスク管理プラットフォームの構築（令和4～8年度）

理工研究域地球社会基盤学系・教授 古内 正美

本研究は、深刻な大気汚染問題を抱えるカンボジアからの強い要請を受け、カンボジア工科大学や環境省と協力して、大気汚染モニタリング網を整備し、持続的に「大気汚染による健康リスク」を低減するための管理体制を構築するものです。これによって、持続可能な快適で質の高い居住環境の提供や、同国の観光産業をはじめとする経済発展に貢献します。また、構築した大気汚染モニタリング網を持続的に維持管理する技術者や、観測データに基づいて最先端の研究を自立して行う研究者の育成を目指します。さらに、その技術者・研究者と協力して、PM2.5（微小粒子状物質）よりも小さく健康リスクが高いPM0.1の実態解明、カンボジア周辺国と連携した大気汚染物質の広域的な影響の解明に取り組み、それらの成果を健康リスク低減につなげます。

ムーンショット型研究開発事業（国立研究開発法人科学技術振興機構）

【目標9：2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現】

子どもの好奇心・個性を守り、躍動的な社会を実現する（令和4～6年度）

医薬保健研究域医学系・教授 菊知 充

感受性の高い幼児～学童期に自尊感情が著しく傷けられると、思春期以降も不安が高く、レジリエンスが生涯にわたり低下します。本研究プロジェクトでは、個性の脳画像技術（幼児用脳磁図）により脳の個性を客観化し、最適化された教育・介入アプリケーションおよび芸術活動による介入の効果を「見える化」し、介入効果についての実証実験を行います。誰もが安心できる環境で、生来の好奇心を発揮しながら成長できる環境の実現を、自治体との連携により目指します。

研究の特色ある取り組み

金沢大学が誇る研究者

— 令和 3 年度の主な受賞 —

令和 3 年度文部科学大臣表彰・科学技術賞（開発部門）

高感度フローサイトメトリーによる PNH 型血球検出法の開発

名誉教授（日本赤十字社石川県赤十字血液センター・所長） 中尾 眞二

令和 3 年度文部科学大臣表彰・科学技術賞（研究部門）

原子間相互作用力計測法の開拓と固体表面上のナノ水膜の研究

理工研究域数物科学系・教授 新井 豊子

産学連携

共同研究の状況

共同研究とは、企業等から研究費等を受け入れ、民間の研究者と本学の研究者が、対等の立場で共通の課題に取り組む制度です。優れた研究成果をいち早く社会に還元することを目指し、本学も積極的に推進しています。

本学の共同研究における実施件数及び実施金額は増加傾向にあり、令和 3 年度においては、株式会社アクトリーと産学連携の包括的推進に関する協定を締結し、同企業と大型共同研究を開始したことにより、令和 2 年度と比して、金額が大きく増加しました。

■ 共同研究件数・金額（年度別）

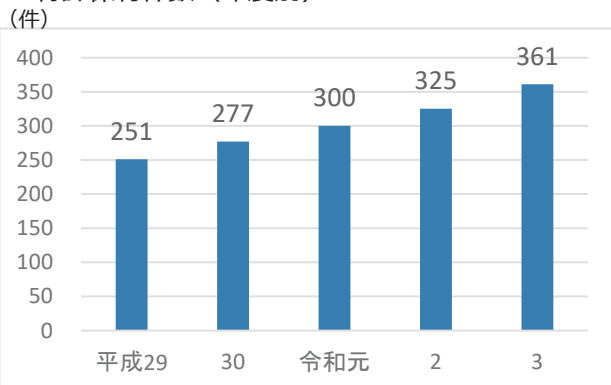


特許活用の状況

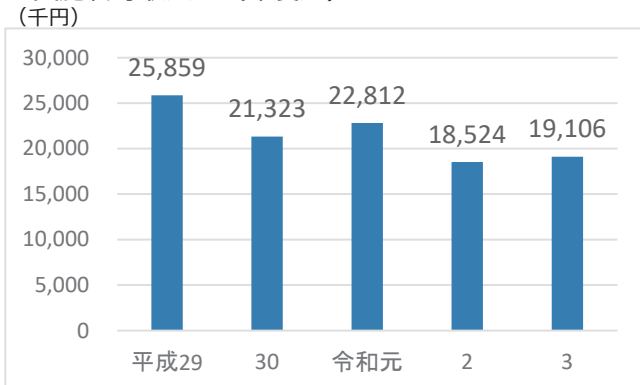
研究の成果によって生み出された大学の特許は、実施料収入等だけを得るのではなく、大学の研究成果が社会で最大限活用されるための手段として利用されています。

特許が社会で有効活用され社会貢献できると判断されるときは、技術移転（企業へ特許の使用許諾をすること＝ライセンス）による活用を図ります。

■ 特許保有件数（年度別）



■ 実施料等収入額（年度別）



令和 3 年度の実施料等収入は 19,106 千円でした。消化器がんの遺伝子診断キットや原子間力顕微鏡、血液診断キット、電波可視化装置などにかかるライセンス技術が主力特許となっています。

株式会社アクトリーとの包括連携協定の締結

令和3年4月、本学は株式会社アクトリーと産学連携の包括的推進に関する協定を締結しました。

この協定は、「脱炭素社会の構築に向けた新たなグリーンイノベーション推進」を大きな共通の目標に掲げ、大型共同研究を複数行うこととしています。

今後、CO₂の吸着・濃縮・回収に関する共同研究からスタートし、脱炭素社会の構築を目指します。



令和3年4月23日 産学連携包括的推進に関する協定締結式を実施

金沢大学認定ベンチャー制度

令和3年9月、本学初となる「金沢大学認定ベンチャー」となる企業4社に対する称号授与式を行いました。

金沢大学認定ベンチャー制度は、本学の研究成果の社会実装の観点から、特許などの実施許諾を受けている企業を「金沢大学認定ベンチャー」として認定し、支援を行う本学初の試みです。

認定企業は下記のとおりです。

- (1)株式会社キュービクス
- (2)株式会社バイオセラピー開発研究センター
- (3)Ostics 株式会社
- (4)株式会社 Kanazawa Diamond



令和3年9月27日 「金沢大学認定ベンチャー」認定企業4社に対する称号授与式を実施

バイオマス・グリーンイノベーションセンター

令和4年秋の竣工を予定している「バイオマス・グリーンイノベーションセンター」では、「人の好奇心を形に、地球に自然の色彩を」の理念の下、バイオマス及びグリーンイノベーション研究の世界的な拠点形成を目指します。本研究拠点では、企業や大学、研究機関との新しい連携の形として「産学官学官連携」による研究開発から、脱炭素社会・脱石油、脱プラスチック社会に向けたオープンイノベーションをこの地で起こします。単なる環境問題の解決を目指すものではなく、一企業では成し得ない革命クラスの産業化を協働企業とともに目指します。



完成イメージ

北陸未来共創フォーラム



新しい発見、新しい結合、新しい価値。
北陸未来共創フォーラム
産学官金プラットフォーム for innovation challenge

令和3年11月、北陸経済連合会と本学を含む北陸地区の国立4大学は、「北陸未来共創フォーラム」を設置しました。

本フォーラムは、地方創生に向けて、北陸の様々な企業・団体、行政、教育研究機関などが出会い、交流するための会員登録型の産学官金プラットフォームです。経済・産業活性化に関する分科会として「マテリアル」「先端エレクトロニクス」「ヘルスケア」「次世代農林水産」の4分科会と、人材育成・地域定着に関する分科会として「地元人材育成」「人材流入・地域定着」の2分科会を設置しています。テーマごとに多様な業種・職種や幅広い立場の方に参画いただき、参画ワーキンググループを開催するなど、具体的な活動を開始しています。



詳細は
こちらから

社会共創

社会との共創による学習・人材育成プログラムの提供

地域社会との共創による学習・人材育成プログラムの開発・提供をととして、地域の皆様の多様な興味・関心や社会の要請に応じた学びの機会を提供し、生涯学習の振興や学びの「輪」の創出と循環に寄与します。

能登里山里海 SDGs マイスタープログラム

世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」を起点に、志を持って集まった様々な背景をもつ人たちの相互学習を通じて、地域の課題解決に貢献できる人材を養成しています。本プログラムは、珠洲市をはじめ能登地域の自治体等と本学との密接なネットワークを基盤として運営しています。令和4年3月末時点で**218名のプログラム修了生を輩出し**、修了後もそれぞれが活躍の場を広げています。

本プログラムは社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムとして文部科学大臣から「職業実践力育成プログラム」の認定も受けています。また、イノベーションネットアワード 2018 において文部科学大臣賞を受賞しました。



<Topics> 「能登の里山里海学会」を開催

令和3年12月4日、能登里山里海 SDGs マイスタープログラム等を基盤とした研究・社会共創活動の発信のため「能登の里山里海学会」を開催。マイスタープログラム受講生、修了生、研究者、学生、地域住民の方々など約80名が参加しました。

当日は能登の地域資源をベースにした活動成果の発表や、マイスタープログラム修了生による体験ワークショップを実施し、参加者は能登ならではの自然・文化資源とその活用について理解を深めました。



共創型企业・人材展開プログラム

金沢大学と協同組合全国企業振興センター（アイコック）および株式会社北國フィナンシャルホールディングスが共同で、都市部で活躍する人材に実践型リカレント教育の場と客員研究員としての立場を提供し、その人材が石川県内企業の発展をサポートする「共創型企业・人材展開プログラム」を実施しています。

都市部の人材が地域企業支援に必要な知見を学ぶ場を提供することで、県内企業が都市部の人材を活用できるネットワークづくりと、都市部の人材が地域企業へと流動するエコシステムの形成に貢献しています。



研究発表会（活動報告）の様子

金沢大学公開講座

社会ニーズに応じた講義やフィールドワーク等、幅広い講座を企画・実施しています。

金沢大学サテライト・プラザ（金沢市西町）のほか、珠洲市内、小松市内のサテライト施設への配信（LIVE 配信）も行い、県内広域にわたり多様な学びを提供しています。

令和3年度実績

30 講座開設（うち4 講座を LIVE 配信） 受講者数 のべ 431 名



金沢大学公開講座
キャラクター
「いしかくん」

地域での体感・体験型の学びと地域活性化や持続可能社会に向けた取り組み

地域にある団体や事業者・企業等との共創によって、学生に体感・体験型の学びを提供するとともに、地域活性化や持続可能社会に向けた新たなアイデア創出や課題解決にも挑戦します。

Project:AERU (アエル)

コロナ禍で減った学生の「出会いと学びの機会」を創出するため、令和3年4月に始動。「いろいろな人に『会える』／個性や強みを『和える』／みんなで学び『合える』」をコンセプトに、本学学生を対象に地域体験型プログラムを開催しています。

出会う、つながる、学びあう。
Project:AERU

<Topics> 番組づくりにゼロから挑戦！切り取った「地域の魅力」

令和3年8月中旬から1カ月間、NHK 金沢放送局との連携事業として、本学学生5名が番組の企画、取材・撮影、動画編集などの番組制作プロセスを体験しました。

学生の発案から、珠洲市を舞台にした映像制作をすることが決定。現地での動画撮影や住民へのインタビュー取材の後、学生自ら映像を編集して完成した動画は、制作のドキュメンタリー映像と共にテレビ放映されました。

奥能登・珠洲市の
隠れた魅力に迫りました！



<Topics> こだわりは麴から！金沢大生がみそづくりに挑戦！

令和4年1月、^{なたうち}鉦打ふるさとづくり協議会の協力を得て「みそづくり体験」を実施し、本学学生5名が参加しました。

冬期にみそづくりが盛んな七尾市中島町鉦打地区で、参加学生は米麴づくり、材料の混ぜ合わせ、仕込み樽への詰め込みなどを体験。それぞれの工程で、現地スタッフから製法のこだわりを事細かに聞きながら、地域伝統の食文化を体感しました。

米麴・みそづくりって
奥が深い…！



TO THE FUTURE 基金

学生が未来社会の中で自ら考え行動できる人材となるキッカケを掴んでもらうため、金沢大学ベンチャービジネスラボラトリーとも連携し、学生と社会で活躍する方々との接点を設けながら、様々なセミナー、ワークショップや交流イベントを開催しています。

こうした事業を幅広く展開するため、金沢大学基金に「TO THE FUTURE 基金」を設置しています。

各企業・団体や事業者の皆様におかれましては、是非とも本趣旨へのご賛同を賜り、事業企画・運営への叱咤激励とともに、本基金へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

金沢大学基金

Web サイト



金沢大学と持続可能な開発目標（KU Triangle for SDGs）

金沢大学では、教育・研究、国際的な活動、地域志向の活動の3つを密接に連携させながら、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取り組みを進めています。

また、2020年より国連大学サステナビリティ高等研究所による「国連大学SDG大学連携プラットフォーム」に参画し、2022年3月の総合討論では本学学生がパネリストとして登壇しました。2020・2021年度には、日本経済新聞社及び日経BPが主催する「日経SDGsフェス大阪関西」に参加し、本学の取り組みを紹介するなど、積極的な情報発信にも努めています。

本学では、今後も持続可能社会の実現に向けた貢献をより一層進めていきます。



附属病院

北陸全域の医療拠点 金沢大学附属病院



新型コロナウイルス感染症への対応

令和 2 年 4 月から、石川県からの要請に応じて重症患者の受け入れを行っています。受け入れにあたり、病棟の整備や人工呼吸器等の高額な医療機器の整備、多数の医療スタッフの配置を行いました。また、同年 5 月に設置した新型コロナウイルス感染症対策基金には、多くの法人個人から多大なご支援をいただいております。寄せられた多くの心温まるメッセージは、コロナ治療チーム（コブサット※ COVSAT : Covid Special Assistant Team)のみならず、病院スタッフ全員の励みとなっています。重症で高度医療を必要とする患者への診療を使命とし、引き続き最善を尽くします。

ドクターカーの導入

令和 4 年 3 月に、ドクターカーを導入しました。ドクターカーの導入により、医療機関への搬送前に現場へ直接医師等の医療従事者が出動することが可能となるなど、傷病者に適切な処置をこれまでよりも早く行うことができるようになります。また、災害発生時には、被災地域での医療支援が可能となります。



（救急科長・救急部長）
医薬保健研究域医学系・教授
岡島 正樹

1 秒でも早く現場に駆けつけ、
「救えるいのちを救う」。
その思いで、ドクターカーを
運用していきます。



導入したドクターカー

新中央診療棟（仮称）の整備

新中央診療棟（仮称）の建設を令和 4 年 3 月に開始しました。新棟の整備により、手術室が現在の 15 室から 20 室に増室されるとともに、手術と血管造影が同時にできるハイブリッド手術室を導入するなど、手術の需要増加と高度な手術への対応が可能となります。

この新棟の供用開始は、令和 6 年春頃を予定しています。



新中央診療棟（仮称）完成予想図

○国際化

留学・国際交流の状況

日本人学生と外国人留学生がともに学ぶ環境の醸成

国際交流協定を締結している海外の大学（以下「協定校」）と相互に学生派遣と受入を行うとともに、様々な受入プログラムを通じて外国人留学生を受け入れ、日本人学生と外国人留学生が切磋琢磨し、学び合える環境作りを行っています。海外研修プログラムのオンライン開催や、協定校とのオンライン交流等のほか、協定校への長期の留学では学生派遣を再開する等、コロナ禍においても学生交流及び学修の機会を広く提供し、国際学生交流の取組を推進しています。

オンラインでも！海外研修プログラムの実施

本学では、協定校への長期の派遣留学制度、語学研修や特定のプログラム等による短期留学制度があり、学生の積極的な参加を呼びかけています。

大学公式の海外研修オンラインプログラムも開催しています。（令和3年度：24件に218名が参加）



現地の授業を金沢で受講

派遣留学（3か月～1年）

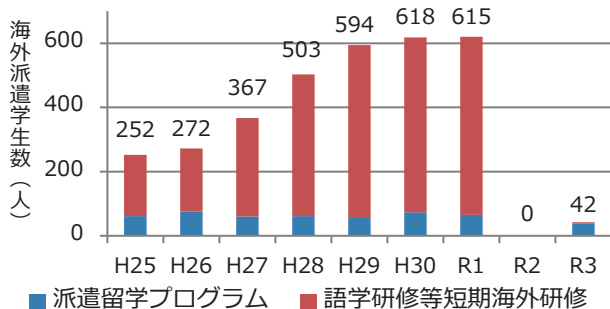
アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、スペイン、ロシア、ベルギー、フィンランド、タイ等の協定校
※令和3年8月から派遣を再開しました

語学研修等短期海外研修（1～6週間）

ファーストステップ（タイ、ニュージーランド）、インターンシップ（JTB、HIS）、英語研修（ワイカト大学）、アントレプレナーシップほか

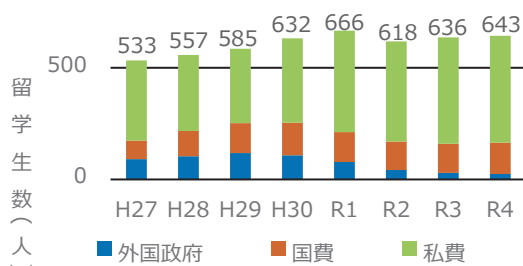
官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム～による派遣

平成26年度からの派遣数累計：97名



優秀な外国人留学生受入の促進

協定校からの交換留学生の受入に加え、政府派遣留学生の受入や国費外国人留学生の優先配置プログラム等により、外国人留学生の受入に取り組んでいます。さらに、渡日が困難な状況においても工夫して協定校の留学生とオンラインで交流を行うなど、様々な留学生受入プログラムを実施しています。（令和3年度：45件に518名が参加）



国際交流協定の拡充

本学は、世界50カ国1地域の機関と協定を締結し、なかでも重点的に学生交流・研究交流を行う重点交流校を定め、海外の卓越した大学との戦略的な教育研究連携を推進しています。

■総数306機関（52カ国 1地域）

令和4年5月1日現在

国際交流協定地域別内訳	大学間	部局間	計
アジア	125	55	180
ヨーロッパ	35	20	55
北米	12	4	16
中南米	11	-	11
ロシア及びNIS	16	3	19
オセアニア	6	3	9
中東	8	1	9
アフリカ	3	2	5
国際機関	1	1	2
計	217	89	306

国際感覚を育むキャンパス環境

学生留学生宿舎「先魁」^{さきがい}、「北溟」^{ほくめい}

国際交流を推進しグローバル人材を育成することを目的に、角間キャンパス内に、外国人留学生と日本人学生が1つのユニット（男女別）で生活するシェアハウス型の宿舎を設置しています。



共有スペースでの交流の様子

金沢での生活を
楽しんでいます！



自然科学研究科 博士前期2年
Chandro Pardede さん

国際交流ができる
環境で生活でき、
毎日が楽しいです！



人間社会環境研究科 博士前期2年
Evan Matthew Kralj Johnson さん

国際交流ルーム

外国人留学生と日本人学生の＜学び＞を通じた交流の促進を目的として、「国際交流ルーム」をキャンパス内に設置しています。

教職員・学生の英語力向上をサポート！

金沢大学スーパーグローバル ELP センター※

全学的な英語運用能力向上のため、教職員・学生を対象とした英語研修プログラムを開講しています。

※ELP: English Language Programs

留学・国際交流の状況

留学・国際交流の拡大を多面的に支えるネットワークとサポーター

海外リエゾンオフィス

本学では、現地学生のリクルートや現地入試、留学のためのサポート、現地との共同研究や海外インターンシップ等の拠点として、13カ国に29カ所の海外リエゾンオフィスを設置しネットワークの拡充を進めています。

コラボラティブ・プロフェッサー制度

本学の卒業生・修了生等で、海外の高等教育機関に所属し、本学の国際化推進を支援する教員等を委嘱し、海外現地で学生の募集、派遣学生のフォローアップや国際共同研究の推進等の支援を得ています。令和4年4月1日現在：192名

国際交流アドバイザー制度

主として本学の海外留学を行う学生や外国人留学生に社会生活、就学、海外インターンシップ等に関する助言や支援を行う学外の者を「国際交流アドバイザー」に任命しています。

国際連携強化教員

海外に強いネットワークを持つ学内者を任命し、国際化推進を強化しています。

国立六大学国際連携機構（SUN/SixERS）

千葉、新潟、岡山、長崎、熊本大学と連携し、各大学の強みを生かして、国際的プレゼンスの向上を図っています。

1. 共同学生交流プログラムの実施
2. 海外の有力大学連合（AUN等）との交流推進
3. 国際化に資するための共同事業



海外同窓会

アメリカ支部、ベトナム、ミャンマー、タイ、中国、インドネシア、ロシア（令和4年5月1日現在6カ国、1支部）

帰国留学生の交流ネットワーク構築の支援をしています。また、各同窓会の代表者が一堂に会する同窓会総会を隔年で実施しています。

ASEAN University Network

ASEAN University Network(AUN)は、ASEAN10カ国の大学が加盟する国際大学連合です。本学は、AUN加盟大学に、日本、中国、韓国の3カ国の大学を加えたASEAN+3 UNet に加盟し、世界各地域と学生交流、研究者交流や共同研究を積極的に実施しています。令和3年度に開催されたThe 5th ASEAN+3 Rectors' Conference は初の日本開催にあたり、本学が代表として幹事校を務めました。



海外拠点を活用した世界トップレベル大学等との研究交流

国際共同シンポジウム

若手研究者を中心とした研究交流を促進しています。
実績例：中国・清華大学、台湾・国立成功大学、ロシア・カザン連邦大学等、タイ・モンクット王工科大学、トンブリ校、ドイツ・デュッセルドルフ大学



シンポジウム発表会の様子

大学院生研究交流会

大学院生同士の研究交流会の開催を促進しています。



発表メンバーによる集合写真
(ベルギー・アントワープ大学にて)

国際化を加速する事業

・日本留学海外拠点連携推進事業（東南アジア）（令和元年度～）

※採択機関：岡山大学

日本留学をより促進するため、海外拠点を設置し、現地でリクルーティング活動を展開することで、優秀な外国人留学生を受け入れる取組を推進しています。

・文部科学省「大学の国際化促進フォーラム」プロジェクト（令和3年度～）

留学生のキャリア形成・地域定着支援を促進するプログラムを、北陸・信州地域の連携大学で共通化して実施するとともに、DXを活用して共通化されたプログラムの全国展開を推進しています。



留学フェアにおける模擬講義

○学生生活・入試情報

学修支援

入学から卒業・修了までの手厚い支援

ラーニングサポートデスク

授業外における教育・学修支援を担うクラス・ラーニング・アドバイザー（CLA）、授業とは紐づかない一般的な「学習」支援を行う附属図書館のライブラリー・ラーニング・アドバイザー（LiLA）が多様な学びに対応します。個人相談やセミナーを通し、入学直後から大学での学びを支援する体制を整備しています。

LiLA の活動場所・時間（授業期間中に実施）

中央図書館：月～金（13:00～16:15）／自然科学系図書館：水・木（13:00～14:30）

対応内容：日常の勉強法、レポート・論文の書き方、プレゼンテーションの方法、資料文献の探し方、外国語学習、理系基礎科目についての相談など

※オンライン相談も受け付けます。

日本人だけでなく留学生の学修も、幅広く支援しています！



LiLA 中窪圭佑アドバイザー

なんでも相談室「～よるまっし～」

「よるまっし」は、金沢の方言で「寄っていきなさい」、「寄ってみませんか」という意味です。気軽に寄ってもらえるよう、名称に取り入れました。

時間・場所：授業期間中の平日、総合教育講義棟 2 階

予約受付：電話、メールで予約受付が可能

相談体制：教員及び学生相談員による相談

必要に応じ専門分野の教員や保健管理センターなどを紹介

対応内容：悩みや相談に応じてアドバイスやサポートを実施 相談内容は秘匿

どんなことでも気軽に相談OK！お話を聞かせてください。



相談員 西川 未来汰特任助教

障がい学生支援室

全学的な障がい学生支援体制の整備のため、平成 27 年度に設置しました。障がいのある学生個々のニーズに応じ、様々な支援を提案しています。例えば、聴覚障がいのある学生への補聴援助機器（マイク）の貸与やノートテーカーの配置等の支援を行っています。また、発達障がいのある学生の学修に関わる個々の相談にも応じています。

みなさん一人ひとりの学びに寄り添い、応援します。気軽に相談に来てください。



相談員 濱田 里羽助教

経済支援

修学支援新制度（学士課程）

経済的な理由で学び続けることをあきらめないよう、令和 2 年 4 月から大学等における修学の支援に関する法律による授業料等減免制度の創設と併せて日本学生支援機構の給付奨学金の対象が拡大されました。対象は住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生（日本国籍、法定特別永住者、永住者又は永住の意思が認められる定住者）です。修学支援新制度に申込み、支援対象となった場合は、世帯の所得金額に基づく支援区分【第Ⅰ区分（全額）、第Ⅱ区分（2/3 免除）、第Ⅲ区分（1/3 免除）】に応じて入学料及び授業料を減免します。さらに支援区分に応じた給付奨学金が支給されます。

■ 修学支援新制度における授業料及び入学料の減免額（R4 年度）

支援区分	減免額	納付必要額	
		授業料(半期)	入学料(1回限り)
第Ⅰ区分	全額	0円	0円
第Ⅱ区分	第Ⅰ区分の減免額の2/3	89,300円	94,000円
第Ⅲ区分	第Ⅰ区分の減免額の1/3	178,600円	188,000円
それ以外	なし	267,900円	282,000円

入学料免除・入学料徴収猶予

学域学生には学資負担者の死亡・災害により、大学院学生には経済的な理由及び優秀な学業成績により、選考のうえ、入学料の全額又は半額を免除する制度や、入学料の納入を猶予する制度があります。

経済支援

授業料免除（修学支援新制度対象者以外）

学域学生のうち修学支援新制度対象外となる者及び大学院・別科学生で、経済的な理由によって授業料の納付が困難な学生で、かつ学業成績優秀と認められる学生には、選考のうえ、授業料の全額、半額又は一部を免除する制度があります。

学外奨学金

本学が取り扱う奨学金は、日本学生支援機構奨学金、地方公共団体及び民間育英団体の奨学金です。奨学生の場合は、主に学業成績が優秀で学資支弁が困難である者です。

募集中の奨学金は、金沢大学 Web サイト＞在学生＞経済支援にて公開しています。

奨励金〔令和 3 年度の実績〕

- 法学研究科法務専攻奨学金 月額 5 万円 : 5 名
- 異分野融合型人材育成「大学院 GS プログラム」奨学金 月額 5 万円 : 17 名
- スタディーアブロード奨学金 ★はコロナ禍の影響により実績なし
- ・ 大学院研究交流枠（派遣）（学会、研修、研究及びラボローテーション等）★
留学期間 7 日以内 5 万円, 8 日以上 1 年以内 JASSO 海外留学支援制度（協定派遣）（以下, JASSO）と同額・同じ給付期間
- ・ 学域・大学院派遣枠 a（派遣留学）: 6 名
 - ① JASSO の成績基準を満たす者: JASSO と同額・同じ給付期間
 - ② 同上を満たさない者: JASSO と同額を 1 ヶ月分のみ支給
- ・ 学域・大学院派遣枠 b・c ★
 - (b. JASSO に採択された本学の公式海外派遣プログラム) JASSO と同額・同じ給付期間
 - (c. 本学の公式海外派遣プログラム, 個人留学, その他の海外研修)
JASSO の月額 1 万円減を留学期間に関わらず 1 ヶ月分のみ支給
- ・ 外部奨学金獲得支援枠（トビタテ！留学 JAPAN 等の面接旅費支援）★
東京: 25,000 円, その他の地域: 国内交通費相当分
- ・ 在籍延長支援枠 : 前期（第 1・2Q）44 名, 後期（第 3・4Q）45 名
（海外留学により, 修業年限（標準修業年限）を超えて在籍する学生）クォーターごとに 12 万 5 千円
- ・ 派遣留学報告会アワード ★
（派遣留学報告会で優秀な発表を行った者） 1 位: 5 万円, 2 位: 3 万円, 3 位: 2 万円
- 官民協働海外留学支援制度 ～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～
第 14 期 9 名(全国枠 6 名, 地域枠 3 名)

本学独自の奨学制度

大学院学生を中心に、各種の手厚い給付型奨学金を制度化しています。

キャリア支援室はすべての学生のキャリア形成・就職活動を強力にサポート！

「進学」「留学」「就職（民間企業・公務員・教員・医療職 etc）」等多岐に亘る学生のキャリア形成・就職活動を、これまで以上に強力にサポートします。

また『留学生キャリア形成・地域定着促進プロジェクト -Link KAGAYAKI- 』において外国人留学生の日本就職支援を行うことで、地域企業との結びつきを強め、北陸地域の活性化を目指します。

<キャリア支援室主催行事等予定>

- | | | | |
|-------------------|----------|------------------|---------|
| ○入学者キャリアガイダンス | [5 月] | ○インターンシップ合同企業説明会 | [5・6 月] |
| ○卒業・修了者によるキャリア講演会 | [10 月以降] | ○本学出身者との交流会 | [11 月] |
| ○企業訪問ツアー | [時期未定] | ○業界・企業研究会 | [時期未定] |
| ○官公庁・教員採用説明会 | [随時] | ○各種ガイダンス | [随時] |
| ○面接練習会 | [随時] | ○キャリア相談 | [随時] |

主な行事

進学・就職状況

本学の令和3年度卒業者（学士課程）の就職率（就職決定者÷就職希望者×100）は98.1%と、前年に続き高い水準で推移しています。また、「大学で学んだ専門分野をもっと深めたい」という学問探究への意欲あふれる学生や「法曹を目指したい」という学生には、大学院進学を強く推奨しています。

進路の特徴は、人間社会学域は官公庁への就職者が多く、理工学域は69%が大学院に進学しており、医薬保健学域は医療機関への就職者が多いことが挙げられます。

■ 令和3年度 国家試験合格実績及び公務員・教員就職者〔大学院進学者は31%・555名〕

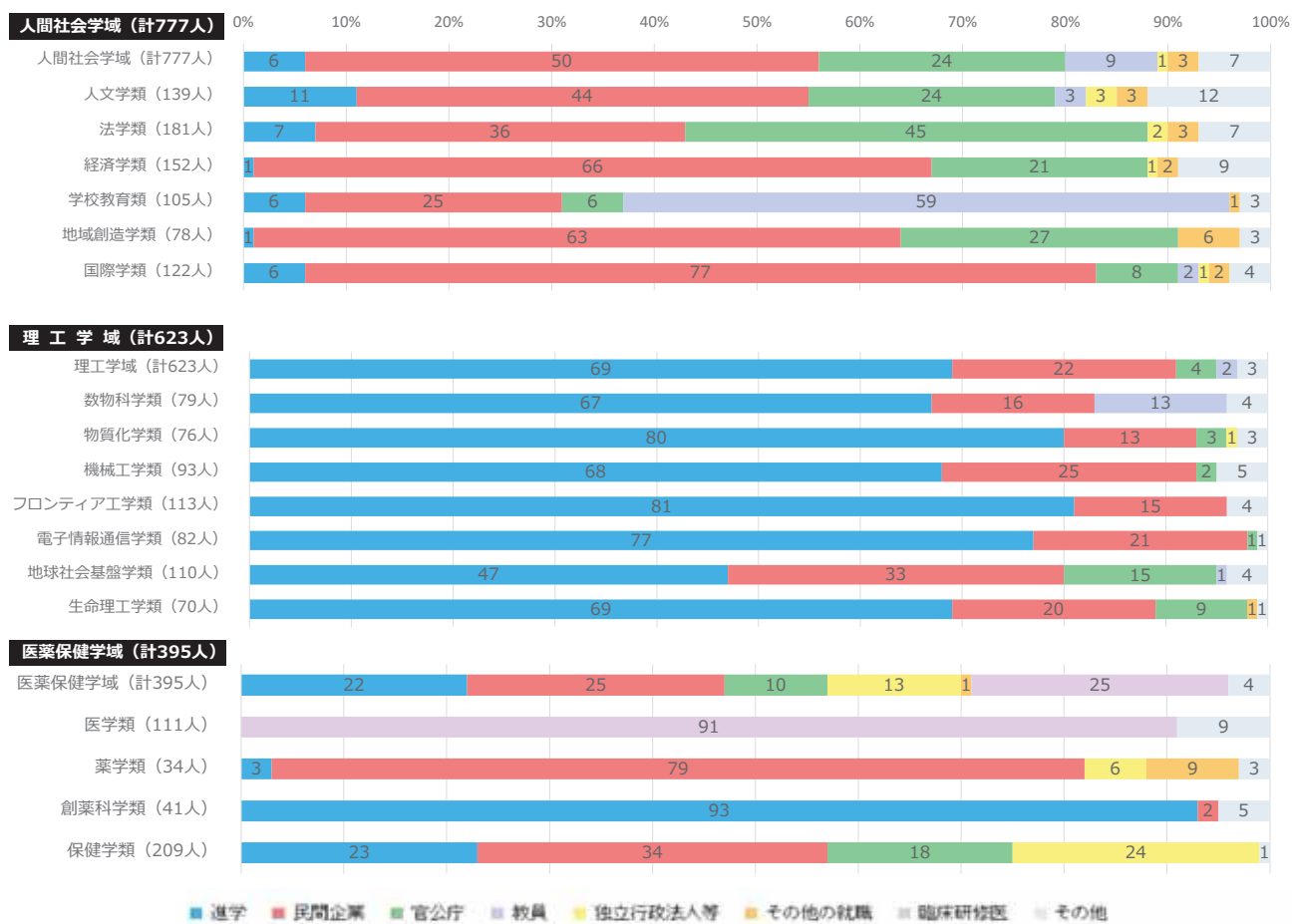
国家試験合格実績	
試験	合格者
司法	4名
医師〔新卒〕	101名（合格率91%）
薬剤師〔新卒〕	32名（合格率94%）
看護師〔新卒〕	81名（合格率99%）

公務員就職者		
試験		就職者
国家公務員	総合職〔旧Ⅰ種〕	0名
	一般職〔旧Ⅱ種〕	42名
	専門職ほか	28名
地方公務員	石川県内	76名
	石川県外	143名

教員就職者	
採用	就職者
正規〔新卒〕	103名
非正規〔新卒〕	67名

卒業者進路状況

※従前の学類卒業者は改組後の学類卒業者と合算し計上



入試情報

学びの可能性を広げる 4 学域・20 学類

募集人員（令和 5 年度入試）

令和 4 年 6 月現在

学域・学类等		入学 定員	募 集 人 員															
			一般選抜		特別選抜													
					前期日程		一括入試		KUGS特別入試		超然特別入試		薬類・ 高大院 接 続 入試	在外 留学生 推薦 入試	社会人 選抜	帰国 生徒 選抜	国際 バカロ レア 入試	私費 外国人 留学生 入試
融合学域	先 導 学 類	55	40 〔文系傾斜 理系傾斜 20 20〕	文系 70	Ⅱ 6	—	Ⅱ 若干名	Ⅰ 若干名	若干名	—	3 若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名		
	観光デザイン 学類	20	18 〔文系傾斜 理系傾斜 12 6〕		Ⅱ 若干名	—	Ⅱ 若干名	Ⅰ 若干名	若干名	—	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名			
	スマート創成 科学類(仮称) ^{※1}	20	18 〔文系傾斜 理系傾斜 6 12〕		Ⅱ 若干名	—	Ⅱ 若干名	Ⅰ 若干名	若干名	—	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名			
	計	95	76		移行人数													
人間社会学域	人 文 学 類	138	120	移行人数 先導学類 3 観光デザイン学類 1 スマート創成科学類(仮称) 1 人文学類 13 法学類 15 経済学類 15 学校教育学類 2 地域創造学類 10 国際学類 10	Ⅱ 5	—	—	Ⅰ 若干名	若干名	—	—	—	若干名	若干名	若干名	若干名		
	法 学 類	150	125		Ⅱ 10	—	—	Ⅰ 若干名	—	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名		
	経 済 学 類	131	106		—	Ⅰ 10	—	Ⅰ 若干名	—	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名		
	学校教育学類 共同教員養成課程	85	58		Ⅱ 18 県教員枠3 教科・免 許状枠 美術3 保健5 家政3 特支4	Ⅱ 7 教科枠 国社英2 数理1 音楽4	—	Ⅰ 若干名	若干名	—	—	—	—	若干名	若干名			
	地域創造学類	83	58		Ⅱ 15	—	—	—	—	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名		
	国 際 学 類	81	51		Ⅰ 20	—	—	Ⅰ 若干名	若干名	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名		
	計	668	518		68	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	理工学域	数 物 科 学 類	78		67	理系 80	Ⅱ 3	—	—	Ⅰ 若干名	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名	若干名
		物 質 化 学 類	78		68		Ⅱ 3	—	—	Ⅰ 若干名	—	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名
		機 械 工 学 類	94		230 理工3学類一括入試 ^{※1}		Ⅱ 3	—	—	Ⅰ 若干名	—	—	—	—	—	—	—	—
フロンティア工学類		103	81 機械工学類 81 フロンティア工学類 83 電子情報通信学類 66	—	—		—	Ⅰ 若干名	—	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名		
電子情報通信学類		76	66	Ⅱ 3	—		—	Ⅰ 若干名	—	—	—	—	—	—	—	—		
地球社会基盤学類		94	76	Ⅱ 3	Ⅱ 5		—	Ⅰ 若干名	—	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名		
生命理工学類		56	45	Ⅱ 5	—		—	Ⅰ 若干名	—	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名		
計		579	486	20	20		5	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
医薬保健学域		医 学 類 (6年制)	112	84	移行人数 先導学類 3 観光デザイン学類 1 スマート創成科学類(仮称) 1 数物科学類 8 物質化学類 7 機械工学類 10 フロンティア工学類 20 電子情報通信学類 7 地球社会基盤学類 10 生命理工学類 6 医学類 1 薬学類 2 保健学類 1 看護学専攻 1 診療放射線技術学専攻 1 検査技術科学専攻 2		—	Ⅱ 27	—	Ⅱ 若干名	—	—	—	—	若干名	—	若干名	
		薬 学 類 (6年制)	65	53			—	—	—	—	—	10	—	—	—	若干名	若干名	若干名
	医 薬 科 学 類	18	18	—		—	—	Ⅰ 若干名	—	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名		
	保健学類	看護学専攻	79	64		—	Ⅱ 14	—	—	—	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名	
		診療放射線技術学専攻	40	36		—	Ⅱ 3	—	—	—	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名	
		検査技術科学専攻	40	32		—	Ⅱ 6	—	—	—	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名	
		理学療法学専攻	15	20 理学・作業併願入試 ^{※2}		—	Ⅱ 5	—	—	—	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名	
		作業療法学専攻	15	10 理学療法学専攻 10 作業療法学専攻 10		—	Ⅱ 5	—	—	—	—	—	—	—	若干名	若干名	若干名	
	小 計	189	152	—		33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	計	384	307	—		60	—	—	—	10	—	—	—	—	—	—	—	
合 計	1,726	1,387	150	94	82	—	—	—	10	3	—	—	—	—	—			

- 【注意】 1 記載事項は全て「予定(案)」であり、今後「変更もあり得る」ことを特に記します。
 2 出願前には、必ず最新の情報を本学Webサイト及び学生募集要項で確認してください。
 3 特別選抜において、Ⅰは大学入学共通テストを課さない入試、Ⅱは大学入学共通テストを課す入試を指します。

- * 1 理工学域機械工学類、フロンティア工学類、電子情報通信学類の一般選抜(前期日程)は、3 学類一括で実施します。
 * 2 保健学類の理学療法学専攻、作業療法学専攻の一般選抜(前期日程)は、2 専攻併願で実施します。
 出願時に第 1 志望及び第 2 志望の専攻の選択が必要です。また、専攻別に合格者を発表します。
 ☆ 1 令和 5 年 4 月の設置に向けて申請中であり、変更があり得ます。

志願倍率（令和 4 年度入試）

学域・学类等			前期日程			入学者数
			募集人員	志願者数	志願倍率	
融合学域	先導学類	文系傾斜	20 (20)	48 (73)	2.4 (3.7)	51 (55)
		理系傾斜	20 (20)	72 (68)	3.6 (3.4)	
	観光デザイン学類	文系傾斜	8 (-)	24 (-)	3.0 (-)	16 (-)
		理系傾斜	5 (-)	15 (-)	3.0 (-)	
人間社会学域	人文学類		120 (123)	223 (234)	1.9 (1.9)	129 (131)
	法学類		125 (135)	274 (215)	2.2 (1.6)	139 (145)
	経済学類		106 (106)	169 (286)	1.6 (2.7)	117 (119)
	学校教育学類共同教員養成課程		58 (58)	187 (96)	3.2 (1.7)	85 (86)
	地域創造学類		63 (63)	155 (171)	2.5 (2.7)	79 (81)
	国際学類		51 (53)	165 (68)	3.2 (1.3)	73 (75)
理工学域	数物科学類		71 (71)	138 (144)	1.9 (2.0)	75 (74)
	物質化学類		69 (69)	142 (143)	2.1 (2.1)	74 (75)
	理工 3 学類前期一括入試 （機械工学類 フロンティア工学類 電子情報通信学類）		239 (239)	426 (496)	1.8 (2.1)	256 (250)
	地球社会基盤学類		80 (80)	222 (128)	2.8 (1.6)	92 (89)
	生命理工学類		49 (49)	125 (77)	2.6 (1.6)	54 (52)
医薬保健学域	医学類		84 (84)	244 (320)	2.9 (3.8)	111 (111)
	薬学類		53 (53)	253 (182)	4.8 (3.4)	63 (66)
	医薬科学類		18 (18)	47 (20)	2.6 (1.1)	19 (19)
	保健学類	看護学専攻	64 (64)	115 (96)	1.8 (1.5)	78 (78)
		診療放射線技術学専	36 (36)	199 (79)	5.5 (2.2)	40 (39)
		検査技術科学専攻	32 (32)	96 (88)	3.0 (2.8)	38 (39)
		理学療法学専攻	10 (10)	58 (53)	2.9 (2.7)	16 (18)
		作業療法学専攻	10 (10)			16 (16)
	一括	文系一括	69 (68)	156 (371)	2.3 (5.5)	69 (68)
理系一括		79 (78)	270 (321)	3.4 (4.1)	79 (78)	
合計			1,539 (1,539)	3,823 (3,729)	2.5 (2.4)	1,769 (1,764)

注1 () は、前年度の数。
注2 (-) は、募集なし。
注3 入学者数には、追選考対象者、特別選抜、政府派遣留学生及び国費外国人留学生も含む。

入学者都道府県別内訳
(令和 4 年度入試)

入学者の地域別内訳の順は、以下のとおりです。

- 北陸 3 県 42.7% (43.7%)
 - 関東・甲信越地域 23.5% (21.9%)
 - 東海地域 16.1% (17.7%)
 - 近畿地域 7.9% (7.9%)
- ※() 内数字は令和 3 年度内訳

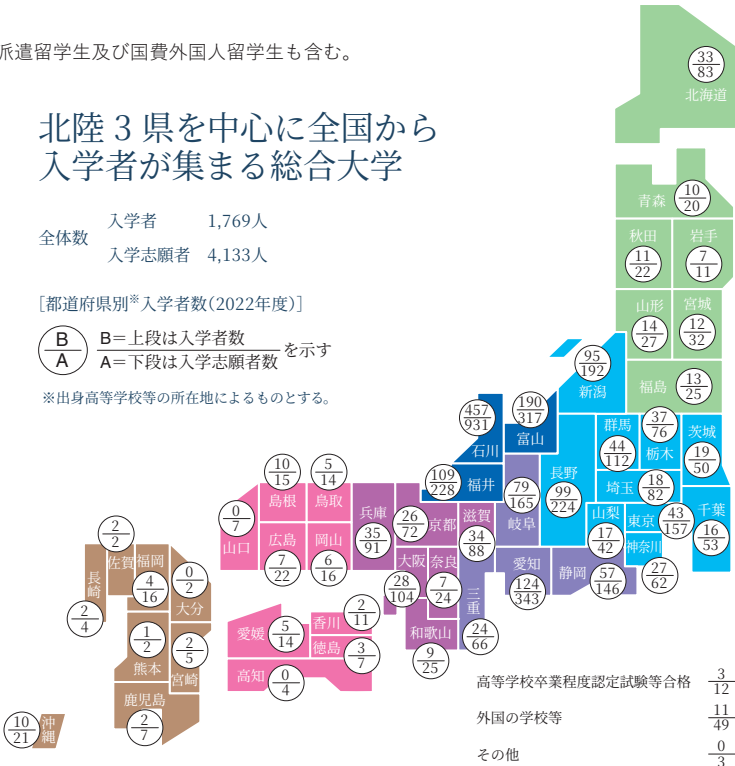
北陸 3 県を中心に全国から
入学者が集まる総合大学

全体数 入学者 1,769人
入学志願者 4,133人

[都道府県別*入学者数(2022年度)]

$\frac{B}{A}$ B=上段は入学者数
A=下段は入学志願者数 を示す

※出身高等学校等の所在地によるものとする。

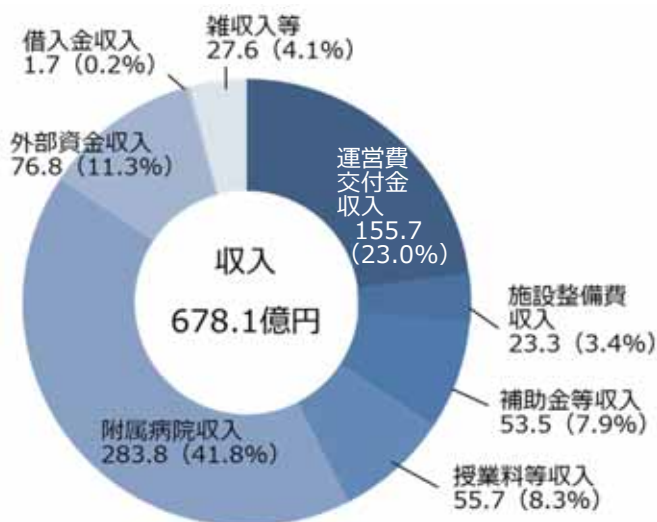


○財務・施設・ガバナンス体制等

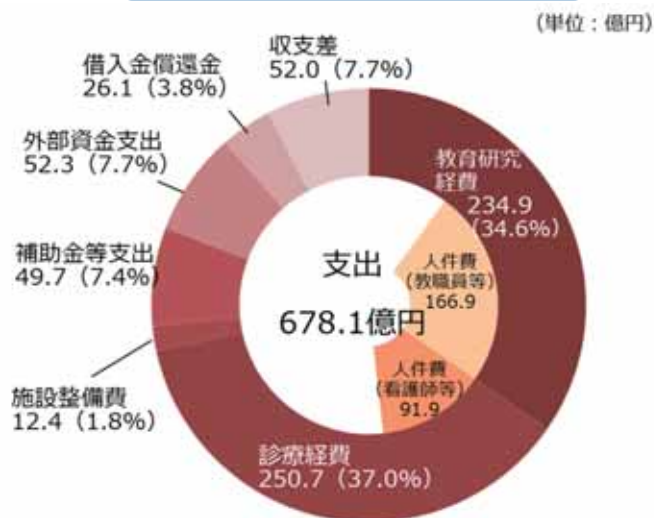
財務状況

困難な財政状況に立ち向かう金沢大学の今

金沢大学の財務状況



令和3事業年度 速報値：収支決算ベース



収支差 52.0 億円は、次年度繰越等となります。

運営費交付金



※上記財務状況の運営費交付金収入との差額は前年度からの繰越分です。

運営費交付金は大学の業務運営の基盤となる財源として、国から毎年度交付されます。

令和3年度は約154億円が交付され、これは**本学収入合計額の約23%**に相当します。

令和3年度の本学への運営費交付金は、主として、基幹運営費交付金の減額により、**令和2年度に比べて約1億円減少**しています。

国の厳しい財政状況により、本学の大学運営の基盤となる基幹運営費交付金は減少傾向にあり、この減少分を補うべく、引き続き安定した自己収入の確保、外部資金の更なる獲得及び業務コストの削減に努め、財政基盤の強化を図っていきます。

運営費交付金には、①大学運営の基盤となる「基幹運営費交付金（基幹経費分）」、②大学独自のプロジェクトや大学改革などに充てる「基幹運営費交付金（機能強化経費分）」、③退職手当や特殊要因等の変動的な経費として「特殊要因運営費交付金」があります。

自治体との比較

本学の令和4年度予算額は約646億円です。金沢大学の予算額を地方自治体の令和4年度一般会計予算額と比較すると、石川県の約1/9、金沢市の約1/3となっています。

【令和4年度 一般会計当初予算額】

石川県

約5,703億円

金沢市

約1,806億円

【石川県に及ぼす経済波及効果】

金沢大学

約870億円

北陸新幹線

約1,680億円

本学の石川県への経済波及効果については、北陸新幹線の開通による波及効果の約1/2という推計もあることから、地域経済の活性化に大きく貢献しているといえます。

(平成30年 本学教員の研究データによる)

教育関係経費

令和 3 年度の学生の教育に要した経費は約 147 億円となり、令和 2 年度に比べて、約 6.4 億円増加しました。これは、コロナ禍の影響が幾分緩和し、教育活動が活発化したことが主な要因です。

この教育関係経費を学生一人あたりに換算すると、年間約 146 万円が学生の教育目的に使用した金額となります。これらは、本学が掲げる「専門知識と課題探求能力、そして国際感覚と倫理感を有する人間性豊かな人材の育成」という教育目標の達成のために活用しています。

教育関係経費の内訳

(単位：百万円)

区 分	R2年度	R3年度	増減
教育経費	2,596	2,818	+222
教育研究支援経費	441	674	+233
教員人件費 ^{*1}	10,227	10,418	+191
職員人件費 ^{*2}	821	810	△ 11
合 計	14,085	14,720	+635
学 生 数	10,146人	10,111人	△ 35人
学生一人当たりの教育関係経費	約139万円	約146万円	+約7万円

*1 教員人件費については、教育を目的とした部署に所属する教員の人件費です。

*2 職員人件費については、学務部及び4学域における学生課職員の人件費です。

研究関係経費

研究関係経費の内訳

(単位：百万円)

区 分	R2年度	R3年度	増減
研究経費	4,680	4,791	+111
外部資金	4,460	5,001	+541
合 計	9,140	9,792	+652
常勤教員数	1,215人	1,234人	+19人
常勤教員一人当たりの研究関係経費	約752万円	約794万円	+約42万円

令和 3 年度の研究に要した経費は約 98 億円となり、令和 2 年度に比べ、約 6.5 億円増加しました。

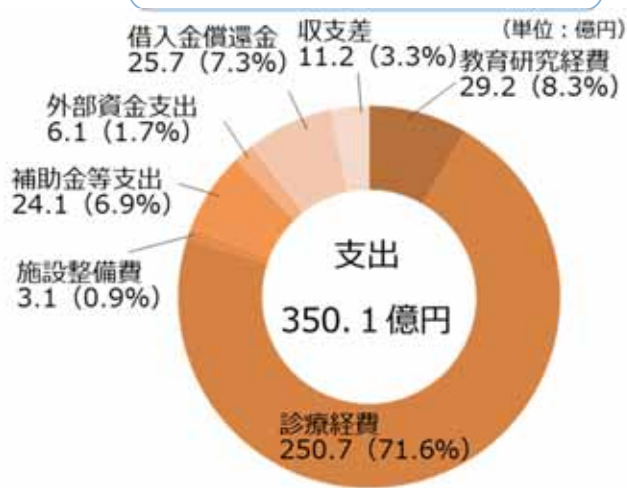
これは、外部資金の受け入れが増え研究活動が活発化したことが主な増加の要因です。

この研究関係経費を常勤教員一人あたりに換算すると年間約 794 万円となります。

附属病院収支

附属病院収支が本学の収入に占める割合は約 52%、支出に占める割合は約 54%であり、その事業規模の大きさからも大学全体の財務運営に与える影響は大きく、健全で安定的な病院経営が不可欠です。

そのため、経営状況についての分析とそれに基づく増収に向けたさまざまな取り組みの実施、物品及び役務契約の見直し等による調達コストの削減など、更なる経営改善に向けて努力しています。



※ 文部科学大臣の承認を受けるまでは、金額等の変更が生じることがあります。

施設整備

主な施設整備事業

平成 28 年度	グローバル化に対応した教育研究環境の整備 ・ (角間) 学生留学生宿舍「先魁」Ⅱ期新営 ・ (宝町・病院) 駐車場・屋外通路環境整備 ・ (宝町) 保健学類 1 号館改修 (Ⅰ期)	 「北溟」(先魁Ⅱ期)	H28.07～H29.03 H26.11～H28.06 H29.03～H29.11
平成 29 年度	・ (宝町・病院) 中央診療棟手術室改修 学生支援設備の充実 ・ (角間) 屋外運動場再整備(金沢大学 SOLTILO FIELD) (産学官連携による既存グラウンドの人工芝化)	 屋外運動場再整備	H29.03～H29.10 H29.09～H30.04
平成 30 年度	・ 「金沢大学インフラ長寿命化計画(個別施設計画)」を策定 ・ (角間) 多目的グラウンド整備 ・ (角間) トイレ機能改善整備(6年計画の1年目) ・ (宝町) 保健学類 1 号館改修 (Ⅱ期) 新たなプロジェクトに応じた施設等の計画的整備 ・ (能登町) 能登海洋水産センター施設新営工事【能登町発注工事】	 多目的グラウンド整備	H30.04～H30.08 H30.09～H30.12 H30.10～H31.05 H30.07～H31.03
平成 31 年度 ・ 令和元年度	・ (角間) サッカー場クラブハウス新営 ・ (角間) トイレ機能改善整備(6年計画の2年目) ・ (平和町他) 附属学校空調設備取設 ・ (宝町) 学際科学実験センター遺伝子研究施設改修	 サッカー場クラブハウス	R01.06～R01.09 R01.10～R02.03 H31.03～R02.02 R01.07～R02.03
令和 2 年度	・ (角間) ナノ生命科学研究所棟新営 ・ (越坂) 能登海洋水産センター別館改修 ・ (宝町・病院) 第 2 立体駐車場新営 ・ (角間) 基幹・環境整備(橋梁耐震化) ・ (角間他) トイレ機能改善整備(6年計画の3年目)	 ナノ生命科学研究所	H31.04～R02.09 R02.01～R02.05 R02.06～R03.03 R02.11～R03.05 R02.09～R03.03
令和 3 年度	附属病院の機能強化整備 ・ (宝町・病院) 多用途型トリアージ施設新営 ・ (越坂) 能登海洋水産センター別館 1 階改修 ・ (角間) 自然科学 5 号館等空調設備改修 ・ (角間他) トイレ機能改善整備(6年計画の4年目)	 能登海洋水産センター別館	R03.05～R03.08 R03.06～R04.03 R03.06～R04.03 R03.09～R04.03
令和 4 年度	・ (角間) バイオマス・グリーンイノベーションセンター新営 ・ (宝町) 保健学類 2 号館改修 ・ (小木) 臨海実験施設研究棟等改修 ・ (角間) 基幹整備(排水設備)改修 ・ (角間他) トイレ機能改善整備(6年計画の5年目)	 バイオマス・グリーンイノベーションセンター	R03.04～R04.09 R04.09～R05.03 R04.09～R05.03 R04.09～R05.03 R04.11～R05.03
令和 5 年度 以降	・ (宝町・病院) 新中央診療棟新営 ・ (角間他) トイレ機能改善整備(6年計画の6年目)	 新中央診療棟	R03.12～R05.12

ガバナンス体制

教員人事制度

国立大学法人金沢大学人事基本方針（令和 3 年 10 月策定）

本学の強み・特色を生かし研究力の強化や教育の質の向上を図るため、本学の教員にふさわしい人格と識見を備え、研究、教育、社会的活動等において優れた能力や実績を持つ者を採用し、戦略的に配置する。（「2.教員の採用・配置・評価・育成」より抜粋）

年俸制
平成27年1月1日導入

獲得した競争的資金に係る間接経費の額に応じて年俸額を加算する等、業績を処遇に適切に反映する仕組みを設けた年俸制を導入（令和 4 年 4 月に成果による昇給幅を広げた新制度導入）

年俸制適用教員数
353 名(令和 4 年 4 月現在)
※全教員の約 35%

クロス
アポイントメント制度
平成27年4月1日導入

他の機関との協定に基づき、本学又は相手機関の職員がそれぞれの身分を保有したまま、本学又は相手機関の常勤の職員として業務に従事できるクロスアポイントメント制度を導入

クロスアポイントメント
制度適用教員数 9 名
(令和 4 年 4 月現在)

ダイバーシティ推進

本学の役員、教職員、学生・生徒等、本学で就労・修学等に従事するすべての者が、相互に、性別、年齢、人種や国籍、障がいの有無、性的指向、性自認その他の個性を尊重し合える共生社会の実現を目指して、令和 4 年 4 月 1 日にダイバーシティ推進機構を設置しました。機構は 5 つの部門と支援室からなり、ダイバーシティ推進施策を企画立案し、関係部署との連携によるシームレスな支援体制を整備して、構成員が資質と能力を十分に発揮できる教育研究環境を実現することを目的としています。

ダイバーシティ推進機構各部門のミッションと取組

キャリアデザイン部門	ワークライフバランス部門	次世代育成部門	グローバルイノベーション部門	ユニバーサル部門
ミッション 女性研究者支援 担当内容 ●研究ハート制度 ●はあぞみ女性研究者賞 ●女性研究者等研究支援制度 ●女性研究者リーダー・管理職育成支援 ●HWRNのマネジメント ●ダイバーシティ研究環境推進委員会のマネジメント	ミッション 生活との両立支援 担当内容 ●管理職研修 ●はあぞみルームの運営 ●ヘルプ・シッター・利用料金割引事業 ●全国ダイバーシティネットワーク組織の大学間人材交流調査 ●男性の育児休業取得促進	ミッション 女子学生・中高生・女性技術者支援 担当内容 ●リカレント教育 ●女子中高生向け実験ハート ●オープンキャンパスでの保護者向け講演会 ●博士後期課程女子学生支援	ミッション 外国人教職員・留学生等支援 担当内容 ●本人及び家族の日本語学習支援 ●子どもの就学・就学支援 ●生活スタートアップ支援 ●多文化共生（LGBTQなども含め）についての啓発・教育	ミッション 障がい学生・教職員支援 担当内容 ●障がい学生の修学についての相談と支援 ●障がい学生を指導する教員からの相談 ●聴覚障がい学生のためのノートテイクの養成と配置 ●フッターの配置 ●手話講座の開催 ●大学構内のバリアフリー化

鈴木大拙－西田幾多郎記念 金沢大学国際賞

金沢大学国際賞は、金沢大学にゆかりをもつ鈴木大拙と西田幾多郎に因み、臼井滄氏（昭和 39 年金沢大学医学部卒業）のご篤志を原資として設けられました。本国際賞の目的は、哲学・思想・宗教を中心とする分野で、国際的に卓越した業績を挙げた研究者を顕彰し、当該分野の研究の一層の進展を促すとともに、次代を担う若手研究者に対して大きな学問的刺激を与えることです。第 3 回は、西田幾多郎を中心とした日本哲学研究とその発信に大きな業績を挙げられ、その分野の国際的な展開の機運を醸成されるとともに、国際的な研究ネットワークの構築・維持にも寄与された点を評価し、James Wallace Heisig 氏（南山大学 名誉教授）に、授賞しました。また、令和 4 年度には第 4 回募集を開始予定です。



記念講演で講演するハイジック氏



授賞式で挨拶する臼井氏

○附属図書館・資料館・同窓会・金沢大学基金

附属図書館

各専門分野の教育・研究を支える 3 館 1 室

- ◆中央図書館（角間北地区）
- ◆医学図書館（宝町地区）
- ◆自然科学系図書館（角間南地区）
- ◆保健学類図書室（鶴間地区）

中央図書館には喫茶「ほんとかふえ。」、医学図書館には特別支援学校運営の喫茶「プラタナスカフェ」を設置

■学生が能動的に学ぶ空間ラーニング・コモンズや日本人学生と留学生の日常的な交流の場

国際交流スタジオを全館に設置

年間総入館者数は **39 万人** 年間総貸出冊数は **9.5 万冊**（令和 3 年度）

（参考）令和元年度：総入館者数 69 万人、総貸出 12 万冊

蔵書数は **191 万冊**（前身校からの貴重な学術専門書も多数所蔵）

来館の利用者（北陸 3 県在住者）に直接貸出をするほか、公共図書館を窓口とした貸出・文献複写も可能（一部を除く）

※ 体調に不安のある方等は入館できません。入館時の体温チェック、手指消毒・マスク着用にご協力ください。

■金沢大学学術情報リポジトリ（KURA）から、本学教職員の学術成果（論文などのコンテンツ）をインターネット上で世界に向け公開

附属図書館ライティングセンター

令和 3 年度、附属図書館の専任教員とライブラリー・ラーニング・アドバイザーの大学院生が「**アカデミック・ライティング**（英語で書くレポート）」の指導を行うライティングセンターを中央図書館に設置

楽しく気軽に英語のライティングやスピーキングについて相談してください。



クワン・ヒージョン
特任助教

大学図書館未来構想 2022

DX の進展、アフターコロナ・ウィズコロナ時代の激動する状況に対応した本学図書館の将来構想を策定。社会に先駆けた総合的な知の創出を担う重要な基盤へ



時習基金の
詳細はこちら

金大図書館時習基金

所蔵貴重資料等の保存・公開、図書館設備の整備・充実等に活用

資料館

金沢大学及び前身校の貴重なコレクション

博物館法に定める博物館に相当する施設に指定

令和 4 年度から埋蔵文化財調査センターと統合し、一層の機能強化を図っています

前身校から受け継いだ文化史、自然史、科学技術史にわたる「**学術標本**」や「**金沢大学史料**」を収集・公開

主な所蔵品：加賀藩校「明倫堂」「経武館」の扁額（金沢市有形文化財）、西田幾多郎書作品、第四高等学校の物理実験機器、著名な宗教家 暁烏 敏 氏の陶磁器コレクション等

■特別展・企画展・出張展覧会等を開催し、学外の博物館等との連携を推進



収蔵資料総数 約 88,000 点

モノ資料 77,000 点 文書資料 11,000 点

埋蔵文化財点数 200,000 点以上

（本学構内から出土した点数）

開館時間 平日 10:00～16:00（入場無料）

入館者数 4,663 人（令和 3 年度）

※ 7,250 人（令和元年度）、2,518 人（令和 2 年度）

累計入館者 111,801 人（令和 4 年 3 月末時点）



常設展示紹介
動画はこちら

同窓会

金沢大学学友会

全国と世界に広がる金沢大学学友会

目的：基幹同窓会を中心とした全国的交流と連携を推進することにより、卒業生相互の交流と親睦を図り、併せて大学との連携及び大学の教育研究活動への支援を行い、大学の発展と社会に貢献します。

設立：平成 23 年 11 月

登録団体数：合計 39 団体

基幹同窓会 8 団体

登録同窓会 31 団体（海外同窓会含む）

※令和 4 年 5 月 1 日現在

金沢大学学友会



ホームカミングデー

本学では、卒業生・修了生に再び母校を訪れてもらう「ホームカミングデー」を毎年開催しています。

- ◆第 15 回ホームカミングデー（令和 3 年 10 月 30 日開催）式典参加者：132 名（うち学外者 76 名）懇親交流会参加者：94 名（うち学外者 57 名）【コロナ対策徹底して、懇親交流会も 2 年ぶりに開催】
- ◆第 16 回ホームカミングデー 開催日：令和 4 年 10 月 29 日（土）（予定）

金沢大学基金

金沢大学基金

平成 20 年 3 月、本学の学生修学及び教育研究等に係る各種事業を支援することにより、我が国の学術・文化の発展に資することを目的に設立しました。

修学支援基金

平成 28 年 8 月、学生が経済的な理由で修学に困難を来さないよう支援することを目的に設立しました。

課外活動振興基金

平成 30 年 4 月、サークル活動を支援する目的で設立しました。

金沢大学カード

平成 28 年 4 月、ご利用に応じて得られる手数料収入の一部が金沢大学基金に寄附される、金沢大学カードを導入しました。



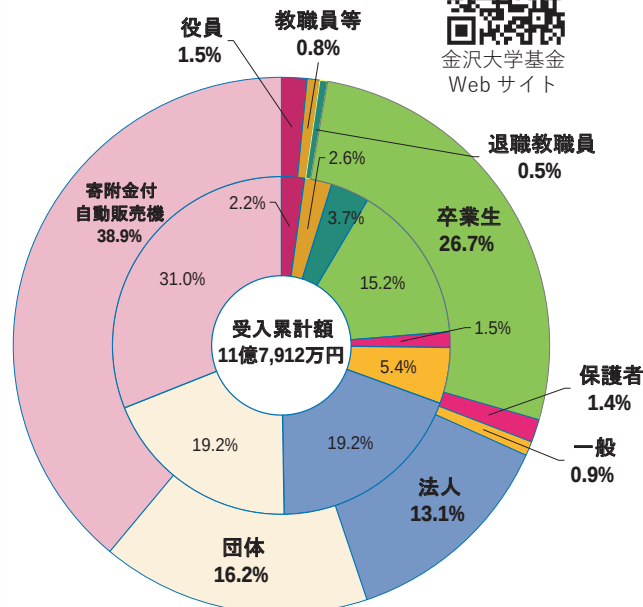
<支援の事例>

■ 学生の国際交流支援事業

学生の海外派遣、受入（修学支援基金を含む）

年度	人数	金額（万円）
平成25～30年度	2,475	22,882
令和元年度	563	4,528
2年度	148	1,332
3年度	47	429
計	3,233	29,171

■ 受入累計額の構成比



※ 外円グラフは令和 3 年度受入額（11,209 万円）の構成比

新型コロナ対策

「緊急学生支援金」事業

コロナ禍による家計急変等の困窮学生へ支援

- ・令和 2 年度：996 人 4,980 万円
- ・令和 3 年度：794 人 3,970 万円

主な行事等

◆令和3年度◆

◆令和4年度（予定）◆（令和4年5月現在）

4月	2日:4月期入学宣誓式 5日:第1クォーター授業開始（～6月9日）	4日:4月期入学宣誓式 5日:第1クォーター授業開始（～6月9日）
5月	29日:新入生保護者懇談会（宝町・鶴間）（オンデマンド） 30日:春季キャンパスビジット	9日:新型コロナワクチン大学拠点接種（職域追加接種）開始（～6月3日） 21日:インターンシップ&仕事体験合同企業説明会 対面の部 28日:学類入学者の父母等との懇談会（宝町・鶴間） 29日:春季 Web キャンパスビジット 31日:金沢大学開学記念日
6月	3日:名誉教授称号記授与式 10日:第2クォーター授業開始（～8月6日） 12日:新入生保護者懇談会（角間）（オンライン） 12～13日:インターンシップ合同企業説明会	7～8日:インターンシップ&仕事体験合同企業説明会オンラインの部 10日:第2クォーター授業開始（～8月5日） 19日:学類入学者の父母等との懇談会（角間）
7月	3日:金沢大学ステークホルダー協議会 6日:新型コロナワクチン大学拠点接種（職域接種）開始	2日:金沢大学ステークホルダー協議会
8月	3～16日:夏季 Web キャンパスビジット 4日:データサイエンス特別プログラムが文部科学省から認定	3～16日:夏季 Web キャンパスビジット
9月	12～14日:日本留学海外拠点連携推進事業 日本留学フェア（タイ） 27日:9月期学位記授与式 29日～10月1日:金沢大学ロシアウィーク 2021（大学の世界展開力強化事業ジョイントシンポジウム等）	26日:9月期学位記授与式 9月中旬～10月下旬 秋季対面型キャンパスビジット
10月	1日:金沢大学イルクーツ事務所開設 1日:第3クォーター授業開始（～12月7日） 14日:第5回 ASEAN+3 学長会議 23日:金沢大学コンテスト(超然文学賞)表彰式 30日:秋季対面型キャンパスビジット 30～31日:金大祭 30日:ホームカミングデイ	1日:10月期入学宣誓式 3日:第3クォーター授業開始（～12月8日） 29日:ホームカミングデイ 29～30日:金大祭, 医学展
11月	6日:秋季対面型キャンパスビジット 13日:秋季対面型キャンパスビジット 13日:留学生ホームカミングデイ 25日:第3回金沢大学国際賞授賞式	中旬 金沢大学コンテスト（日本数学 A-lympiad）
12月	4日:令和4年度特別選抜入試（KUGS, 超然等） 8日:第4クォーター授業開始（～2月10日）	9日:第4クォーター授業開始（～2月13日）
1月	15～16日:大学入学共通テスト（29～30日:追試験） 22～23日:業界・企業研究会 オンラインの部	14～15日:大学入学共通テスト
2月	19～21日:業界・企業研究会 対面の部 21～23日:文理系総合企業研究会（合同セッション） 22日:羽咋市と包括連携協定を締結 25～26日:令和4年度一般選抜入試（前期日程）	25～26日:令和5年度一般選抜入試（前期日程）
3月	2～3日:業界・企業研究会 オンラインの部 12～16日:日本留学海外拠点連携推進事業 日本留学・就職フェア（タイ） 22日:学位記・修了証書授与式 23日:金沢大学コンテスト（日本数学 A-lympiad）表彰式 16日:富山大学と「共同教員養成課程に関する協定」を締結	22日:学位記・修了証書授与式

歴史と伝統を未来へ紡ぐ～写真で見る金沢大学～

本学は長い歴史の中で、わが国の高等教育と学術研究の興隆に貢献し、日本海側を代表する基幹的大学へと発展してきました。教育、研究およびそれらを基にした社会貢献により地域と世界に資するべく、今後も不断の改革を続けてまいります。

○第四高等学校（1887年～1894年）



第四高等学校時代の校舎

第四高等学校校舎建設草創期の姿をとらえた写真です。周囲に樹木はほとんどなく、仙石原と呼ばれた景色が校舎の周りに広がっています。校舎本館は、「石川四高記念文化交流館」として、現存しています。
〔1892(明治25)年(草野写真コレクションより)〕

○金沢城内（丸の内）キャンパス（1949年～1995年）



雪合戦

背景は、教養部旧校舎と建築中の教養部
〔1967(昭和42)年(第15回卒業アルバムより)〕



雪の石川門 入学試験

足元を気づかいながら、試験会場へと向かう受験生
〔1981(昭和56)年(入学記念アルバムより)〕



教育学部校舎(旧陸軍の施設)

1937(昭和12)年竣工の旧陸軍歩兵第7聯(れん)隊の施設。教育学部大講義室として、角間キャンパスへの移転直前まで使用されました。
〔1994(平成6)年撮影〕

○角間キャンパス（現在）



〔2020(令和2)年撮影〕



四高を引き継ぐ校章「四稜星章」

中央図書館の吹き抜け空間の天井には、四高の校章を模した北辰(北極星)がデザインされています。

本誌表紙

MEMO

MEMO



金沢大学
KANAZAWA
UNIVERSITY